

教育に関する事務の点検及び評価報告書 (平成27年度事業分)

平成28年9月

葛城市教育委員会

目 次

はじめに.....	1
1. 教育に関する事務の点検及び評価の実施方針について.....	2
2. 教育に関する事務の点検及び評価について.....	2
3. 教育委員会点検・評価に関する有識者の概要.....	4
4. 教育委員会の運営及び活動状況.....	5
5. 葛城市総合計画に基づく政策体系について.....	9
6. 教育委員会事業評価シート.....	1 1
7. 点検及び評価のまとめ.....	6 7

はじめに

教育委員会は、都道府県及び市町村等に置かれる合議制の執行機関であり、教育委員会が自ら立てた教育行政の基本方針に基づき、教育に係る広範かつ専門的な事務を確実に実施することが求められます。

平成２７年４月１日には「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正が行われ、教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携強化が図られたところです。

この「教育に関する事務の点検及び評価」は、平成２０年度より毎年、事務の管理及び執行の状況について自己点検及び評価を行い、その結果を議会に提出するとともに公表しております。今年度は、平成２７年度事業評価にあたり、前年度評価の実施後、改めて評価対象や評価方法に係る議論を重ね、その上で担当課ごとに自己評価に取り組みました。６月には、「葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者」により、各事業実務担当者に対するヒアリングを実施し、各事業についてご意見をいただきました。

有識者のご意見を受けて再度担当課ごとに来年度以降の事業方針を決定し、最後に教育委員より評価の総評をいただきました。

この報告書は、以上の成果を「教育に関する事務の点検及び評価報告書」としてまとめたものです。

1. 教育に関する事務の点検及び評価の実施方針について

(1) 趣旨

葛城市教育委員会は、毎年、主要な施策や事務事業の取組状況について点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図る。

また、点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することにより、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進する。

(2) 実施方法

- 1) 葛城市教育委員会の主要施策を対象として点検及び評価を行う。
- 2) 点検及び評価は、前年度の施策・事業の進捗状況を総括するとともに、課題や今後の取組の方向を示すものとし、毎年1回実施する。
- 3) 施策・事業の進捗状況等を取りまとめ、有識者の意見を聴取した上で、教育委員会において点検及び評価を行う。
- 4) 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、「葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者」を置く。
(「葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者」は、教育に関し学識経験を有する者の中から、教育委員会が委嘱する。)
- 5) 教育委員会において点検及び評価を行った後、その結果をとりまとめた報告書を市議会へ提出する。また、報告書は公表するものとする。

2. 教育に関する事務の点検及び評価について

(1) 評価の対象

評価の対象は前年度の施策・事業（今回は平成27年度事務執行分）とし、葛城市教育委員会所管の学校教育・社会教育それぞれの分野の施策に関して、評価を実施しました。

（２）今年度の点検及び評価の流れ

まず、主要事業ごとに教育委員会事務局自らがそれぞれの事業のコスト及び成果等について自己評価を行いました（教育委員会事業評価シート（計画）・（実施内容）・（評価）各欄）。その後、事務局評価の客観性を確保するため、作成した評価シート及び各課への有識者ヒアリングをもとに、有識者より様々なご意見をいただきました（教育委員会事業評価シート（有識者意見）欄）。事務局はそれらのご意見を受けて、来年度以降の事業方針を決定しました（教育委員会事業評価シート（方向性）各欄）。

最後に、これらすべてについて教育委員よりご意見をいただきました（点検及び評価のまとめ）。

（３）点検・評価の経緯

①平成２７年度 ３月定例教育委員会会議（平成２８年３月８日開催）

教育に関する事務の点検及び評価の公表・年度計画について協議決定するとともに、事務の点検及び評価を行う様式及び評価事業の決定を行いました。

②教育に関する事務の点検及び評価 有識者ヒアリング

（平成２８年６月８日・９日開催）

事業評価について、各事務担当より意見聴取を行いました。

③平成２８年度 ７月定例教育委員会会議（平成２８年７月２９日開催）

教育に関する事務の点検及び事業評価について協議しました。

④平成２８年度 ８月定例教育委員会会議（平成２８年８月８日開催）

教育に関する事務の点検及び評価報告書を決定しました。

⑤「教育に関する事務の点検及び評価報告書」を葛城市議会議長に提出します。

（平成２８年９月提出予定）

(4) 各事業の方向性

平成27年度主要施策における来年度以降の方向性について、集計結果は以下のとおりです。

事業の方向性	件数
さらに重点化する	3件
現状のまま継続する	11件
見直しのうえ継続する	10件
事業の縮小を検討する	0件
休止、廃止を検討する	0件
終了・完了	3件

(主要施策ごとの評価は、P13～P66に掲載)

3. 教育委員会点検・評価に関する有識者の概要

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条に基づき、葛城市教育委員会が行った事務の管理及び執行の状況についての自己点検及び評価に対する意見をいただくため、葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者を委嘱しました。

有識者は、次の方に委嘱しました。

岡野 晴充 (元小学校校長、葛城市社会教育委員・公民館運営審議会委員)

川中 教正 (當麻寺奥院 副住職)

(主要施策ごとの意見は、P13～P66に掲載)

教育委員会の運営及び活動状況

(1) 教育委員会委員について

教育委員会委員は下表のとおりです。(平成28年 9月1日 現在)

職 名	氏 名	備 考
教育長	大西 正親	
教育長職務代理者	和田 治	
委 員	米田 知昭	
委 員	高木 希容子	
委 員	西川 吉昭	

(2) 教育委員会議及び審議状況について

平成27年度は合計で20回の委員会を開催し、審議事項20件、協議報告事項38件について審議・協議を行いました。内容は、下表のとおりです。

開催日	審議事項	協議報告事項
4月16日	・葛城市教育委員会教育長職務代理の指定について	・スポーツ推進委員の委嘱について ・平成27年度学校教育課程について
5月12日	なし	・磐城幼稚園の耐震診断状況について ・学校の不登校について
5月29日	・文化財保護審議会委員の委嘱について ・葛城市一般会計補正予算に対する意見聴取について	・葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者の委嘱について ・特別支援学級の教育課程について ・学校運営協議会設置校の指定および委員の委嘱について ・教科書採択委員の委嘱について ・教育委員会応援名義の使用について
6月9日	・条例の一部改正及び工事請負契約の締結に関する意見聴取について	・葛城市学校給食運営委員の委嘱について

開催日	審議事項	協議報告事項
6月22日	・社会教育委員・公民館運営審議会委員の委嘱について	・葛城市子どもの読書活動推進計画について ・教育委員会後援名義の使用について
7月7日	なし	・教育委員会評価意見提出について
7月21日	なし	・平成28年度以降使用中学校教科用図書の採択（案）について ・教育委員会後援名義の使用について
8月10日	なし	・教育委員会後援名義の使用について ・葛城市の教育の現状と課題の仕分けについて
8月18日	・平成28年度以降使用の中学校教科用図書の採択について ・財産の取得に関する意見聴取について ・指定管理者の指定に関する意見聴取について ・葛城市一般会計補正予算に対する意見聴取について	・教育に関する事務の点検及び評価報告書（平成26年度事業分）について
9月20日	なし	・教育委員会後援名義の使用について
10月8日	なし	・教育委員会後援名義の使用について ・葛城市の教育の現状と分析について ・学校訪問について
10月22日	なし	・教育委員会後援名義の使用について ・葛城発信アートフェア2015について
11月9日	なし	・全国・学力状況調査の概要について ・予算について

開催日	審議事項	協議報告事項
11月27日	・葛城市教育委員会委員の任命について ・工事請負契約の変更契約の締結について (葛城市立新庄北小学校増築工事及び葛城市立新庄北小学校附属幼稚園地震補強・大規模改造工事) ・一般会計補正予算に対する意見聴取について ・学校給食特別会計補正予算に対する意見聴取について	なし
12月15日	なし	・教育委員会後援名義の使用について
1月22日	なし	・学校給食運営委員の委嘱について ・教育委員会後援名義の使用について ・教育委員会作文審査について
2月5日	なし	・幼稚園・学校教育の基本方針について ・小・中学校グローバル人材教育プログラムについて ・幼稚園の一時預かりについて
2月23日	・平成27年度一般会計補正予算(第6号)に対する意見聴取について ・平成27年度学校給食特別会計予算補正予算(第2号)に対する意見聴取について ・平成28年度一般会計予算に対する意見聴取について ・平成28年度学校給食特別会計予算に対する意見聴取について ・条例の一部改正に関する意見聴取について ・葛城市教育委員会委員の任命に関する意見聴取について	・教育委員会後援名義の使用について
3月8日	なし	・教育委員会後援名義の使用について ・平成28年度教育委員会評価対象事業について

開催日	審議事項	協議報告事項
3月28日	・葛城市一般会計補正予算に対する意見聴取について	・教育委員会後援名義の使用について ・教育大綱について

(3) 教育委員会議以外の活動について

市内外の各種行事や研修等に参加しました。主な内容は、以下のとおりです。

- ・総合教育会議（6月16日、7月24日、9月1日、10月27日、12月22日、2月9日、3月15日）
- ・各幼稚園、小・中学校入学式（4月7日～9日）
- ・市町村教育委員会教育委員長・教育長会（6月3日）
- ・葛城市立学校新着任者研修会（8月7日）
- ・市民体育祭（9月20日）
- ・各幼稚園、小・中学校運動会（9月26日～10月8日）
- ・平成27年度近畿市町村教育委員会研修大会（10月13日）
- ・平成27年度市町村教育委員会研究協議会（11月12日・13日）
- ・平成27年度奈良県市町村教育委員会研修会（11月26日）
- ・各小・中学校訪問（11月9日～11月24日）
- ・各幼稚園訪問（1月29日、2月9日）
- ・葛城市駅伝・マラソン大会（1月10日）
- ・成人式（1月11日）
- ・教職員人事ヒアリング（1月25日）
- ・生涯学習まちづくり推進大会（2月14日）
- ・各幼稚園、小・中学校卒業式（3月16日～18日）

5. 葛城市総合計画に基づく政策体系について
葛城市総合計画については以下のとおりです。

都市像	政策の柱	
悠久のロマンと次代の英知が織りなす 爽快都市 _{シティ} 葛城	安全・安心 ～安全がまもられ、安心して暮らせるまち～	
	愛着・快適 ～自然や歴史遺産の豊かさと住みよさが共存する、愛されるまち～	
	やさしさ・生きがい ～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～	
	参画・活力 ～市民と行政が目標を共有し、ともに取り組むまち～	

政策目標	施策目標
犯罪・災害に対する安全性の向上	犯罪から市民をまもり安全性を高める 自然災害や火災等に対する安心感を高める
事故や病気に対する安心感の向上	安心して救急医療サービスが受けられるようにする 交通事故を減らし、安全に対する意識を高める
社会生活の安全性の向上	食に対する安心感を高める 消費生活や個人情報の安全をまもる
良好な自然・地域環境のブランド化	良好な自然と地域環境を保全し、活用する 循環型社会への取組を高めるとともにモラルを向上させる
歴史・文化の保全・継承と交流の促進	歴史遺産をまもり、来訪者を増やす 伝統文化を継承するとともに新たな文化・交流を生み出す
日常生活の利便性・快適性の向上	駅前整備や道路など日常生活の利便性を高める 憩いや散策の場が身近にあり、快適性を高める
地域産業の振興と担い手の育成	農業をはじめ第1次産業の担い手を育てる 特産品や技術を生み出し、地域産業を活性化する
子育てと生きがいの両立	地域で支えあいながら、楽しく子育てができるようにする 子育てと仕事が両立できるようにする
学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり	互いの人権を尊重し、思いやりのある心と健全な精神を育てる 必要な知識や能力を身につけられるようにする 芸術文化活動やスポーツ活動などを活発にする
いきいきとした生活と社会参加の促進	病気にかからず、介護を必要としないよう、心身の健康を保つ 高齢者や障害者の方が安心して生活できるようにする
市民参画による協働のまちづくりの推進	地域コミュニティ・団体を育てる 市民や事業者の考えや提案をまちづくりに活かす
効果的な行財政運営	経費の削減と独自財源の確保による財政基盤を強化する 職員の能力を高め、アイデアを政策に反映させる 目標に応じた効果的なサービス等の提供を行う

※網掛け部は今回の教育委員会評価対象事業において目標とされている施策です。

6. 教育委員会事業評価シート

【平成 27 年度主要事業に対する教育委員会評価シート】

事業 No. 1	学校施設改修工事（増築）	1 3
事業 No. 2	学校施設地震補強工事	1 5
事業 No. 3	相談（来室・訪問）事業・研修支援	1 7
事業 No. 4	適応指導教室	1 9
事業 No. 5	スクールカウンセラー（S C）	2 1
事業 No. 6	学校給食事業	2 3
事業 No. 7	葛城歌壇短歌大会	2 5
事業 No. 8	読書活動支援・講座	2 7
事業 No. 9	ブックスタート事業	2 9
事業 No. 10	成人式式典事業	3 1
事業 No. 11	生涯学習人材バンク事業	3 3
事業 No. 12	青少年健全育成事業	3 5
事業 No. 13	学校・地域パートナーシップ事業	3 7
事業 No. 14	生涯学習まちづくり推進大会	3 9
事業 No. 15	葛城アートフェア事業	4 1
事業 No. 16	公園まつり実行委員会業務	4 3
事業 No. 17	地区館教室・講座事業	4 5
事業 No. 18	中央公民館・當麻文化会館 教室・講座事業	4 7
事業 No. 19	文化振興事業	4 9
事業 No. 20	展示（常設展・特別展等）事業	5 1
事業 No. 21	歴史講座開催事業	5 3
事業 No. 22	埋蔵文化財等調査事業	5 5
事業 No. 23	文化財保存事業	5 7
事業 No. 24	各種教室開催事業	5 9
事業 No. 25	各種スポーツ大会等開催事業	6 1
事業 No. 26	体育施設の管理運営事業	6 3
事業 No. 27	総合型地域スポーツクラブ事業	6 5

教育委員会事業評価シート

		事業No.	1
事務事業名	学校施設改修工事（増築）	担当課名	教育総務課
係 名	施設係	施 設 名	新庄北小学校

（ 計 画 ）

総合計画上の 位置付け	政策の柱	安全・安心～安全がまもられ、安心して暮らせるまち～			
	政策目標	犯罪・災害に対する安全性の向上			
	施策目標	自然災害や火災等に対する安心感を高める			
事業の目的	少人数学級に対応可能な学校環境を整え、より充実した教育を行う				
事業の内容	本事業は新庄北小学校の普通教室の増築工事を行うもので、同校校区の児童の増加により教室数が不足するため、鉄筋コンクリート造・3階建て・延べ面積418.95㎡の校舎に4教室分の増築を行った。				
事業対象	新庄北小学校普通教室				
事業年度	口	区分指定無	■	平成 26年度	～ 平成 27年度 間

（ 実施内容 ）

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成26年度決算	平成27年度決算
		事業費 ①		8,278	244,099
		内一般財源		8,728	192,630
		内国・県補助金		0	51,469
		内受益者負担		0	0
		人件費 ②		8,194	8,332
		総コスト①+②		16,472	252,431
実績と 成 果	区 分		単位	平成26年度実績	平成27年度実績
	事業 実績	改修工事	円	0	237,772,800
		監理委託料	円	0	2,800,400
		実施設計	円	8,277,120	1,026,000
	事業 成果	教室	室		4

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)							
	☒	増加	☐	横ばい	☐	減少	☐	かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)							
	☒	十分貢献している	☐	概ね貢献している	☐	あまり貢献していない	☐	貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)							
	☐	十分できている	☒	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)							
	☒	十分できている	☐	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない
総合評価	A		A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要					
評価の説明	児童数増加と転入等による児童数増対策として、少人数学級対応可能な学校環境を整え、より充実した教育が可能となった。							
事業の課題・問題点	現状の児童増加への対応は当該増築工事により、各学年とも少人数学級対応可能な平均したクラス児童数(1クラス25人程度)となったが、今後住宅開発等による人口増加に伴う増築が可能かどうか問題である。							

評価を受けての改善点(過去3年間)	校区の住宅開発や人口動態等を常に把握するようにし、事前対応をできるようにしていく。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	これからの児童数の把握をされ、子供たちが充実した教育を受けられるよう、学校環境など色々な面を考慮した改修工事であり、評価できる。 新庄北小学校の校区は現在新築住宅が増加している地域である。現在の教育環境の水準に応じつつ子育て世代の人口増に対応しなければならない。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☒	さらに重点化する	☐	事業の縮小を検討する
	☐	現状のまま継続する	☐	休止、廃止を検討する
	☐	見直しのうえ継続する	☐	終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	市内各校区の住宅開発状況や人口動態状況を把握し、どの校区にどのタイミングで保育室、教室等を増やさなければならないかを事前に見極めた事業の推進に努めるとともに、園児・児童・生徒が安全でかつ快適な環境のもとで教育を受けられるよう努める。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	2
事務事業名	学校施設地震補強工事	担当課名	教育総務課
係 名	施設係	施 設 名	新庄北小学校附属幼稚園他

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	安全・安心～安全がまもられ、安心して暮らせるまち～			
	政策目標	犯罪・災害に対する安全性の向上			
	施策目標	自然災害や火災等に対する安心感を高める			
事業の目的	教育施設の耐震性を高め、児童・生徒の安全を確保する。				
事業の内容	本事業において平成27年度では新庄北小学校附属幼稚園地震補強・大規模改造工事を実施した。 事業内容は、新庄北小学校附属幼稚園地震補強・大規模改造工事について、市内各幼稚園の地震補強工事の一環として行うもので、耐震診断調査の結果、地震補強工事を必要とする建物との判定から、鉄骨造・平屋建て・延べ面積386.36㎡の園舎の地震補強工事及び大規模改造工事を行った。 耐震事業に関しては、28年度においては、磐城幼稚園の改築にともない、設計を行う予定。				
事業対象	幼稚園の園舎				
事業年度	口	区分指定無		■	平成 27年度 ～ 平成 27年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
		事業費 ①		494,122	109,008	20,520
		内一般財源		381,960	97,005	0
		内国・県補助金		112,162	12,003	20,520
		内受益者負担		0	0	0
		人件費 ②		8,194	8,332	5,572
		総コスト①+②		502,316	117,340	26,092
実績と 成 果	区 分		単位	平成 26 年度実績	平成 27 年度実績	平成 28 年度(目標)
	事業 実績	学校耐震改修棟	棟	0	0	0
		幼稚園耐震改修棟	棟	0	1	1
	事業 成果	学校耐震化率	%	100.00	100.00	100.00
		幼稚園耐震化率	%	71.40	85.71	85.71

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☒ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
評価の説明	A A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
事業の課題・問題点	子どもの命を第一に耐震補強を行い、耐震基準を満たす構造とした。また内部もリニューアルし、子どもたちが快適に学習できるようにした。 幼稚園についての耐震化は現在目標の半ばまでは進んできている。残る幼稚園については順次耐震工事対応となるが早期耐震化達成に努め、かつ安全で安心できる施設の環境づくりを進める必要がある。			
評価を受けての改善点(過去3年間)	安全で安心できる幼稚園施設を提供できるよう、教育環境整備のための取り組みに努めていく。			

(有識者意見)

有識者意見	子供たちが毎日活動する幼稚園は、安全でなくてはならない。そのためにも耐震補強・大規模改修工事により、園児が安心して園生活を送れる環境整備ができたことは評価できる。今後も、施設点検を定期的に行っていただき、すべての教育施設の環境整備に取り組んでいただきたい。 地域の未来を担う子ども達は地域の宝である。東南海・南海地震や直下型地震がいつ発生するか分からない中、東日本大震災、熊本大分地震などの教訓を活かし、安全な教育環境を整えることは、多くの市民にとって有益である。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☒ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等)	東南海・南海地震や直下型地震等がいつ発生したとしても子どもたちの安全を確保できるように、小中学校の耐震改修事業については平成26年度で耐震化率100%を達成したが、幼稚園においては、本事業の完成により耐震化の必要な幼稚園舎は残り1棟となった。この1棟についても現在、耐震化工事に向けての準備に取り組んでいるところで、園児が安心して園生活を送れる環境整備を進める。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	3
事務事業名	相談（来室・訪問）事業・研修支援	担当課名	学校教育課
係 名	教育相談室	施 設 名	教育相談室

（ 計 画 ）

総合計画上の 位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～				
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり				
	施策目標	互いの人権を尊重し、思いやりのある心と健全な精神を育てる				
事業の目的	子育て・教育についての相談に応じ、その諸問題の改善を図る。					
事業の内容	不登校をはじめ学校生活上の諸問題について保護者や教員（ときには児童・生徒）の相談に応じ、その改善に向けて指導助言を行う。また、園児・児童・生徒の発達や成長についての相談に応じ、保護者へのカウンセリングや教員へのコンサルテーション（支援者に対する助言等）を行う。 巡回相談は、幼稚園や学校からの要請に応じて訪問し、保護者や教員の相談に応じている。さらに、幼稚園、小・中学校、特別支援学校への就学指導相談も行う。					
事業対象	市内の幼稚園・小・中学校の園児・児童・生徒とその保護者、市立園・校の教員。					
事業年度	■	区分指定無	□	平成	～平成	間

（ 実施内容 ）

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
		事業費 ①		0	0	0
		内一般財源		0	0	0
		内国・県補助金		0	0	0
		内受益者負担		0	0	0
		人件費 ②		8,495	9,389	0
		総コスト①+②		8,495	9,389	0
実績と成果	区 分		単位	平成 26 年度実績	平成 27 年度実績	平成 28 年度(目標)
	事業実績	電話・来室相談(件数)	回	296(53)	228(62)	0
		巡回相談	件	339	383	0
	事業成果	問題行動回避・防止	%	51	58	0
		問題状況改善・解決	%	49	42.00	0

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	就学前・義務教育期から子どもや保護者に寄り添い、悩みや不安を受けとめ適切な示唆を与えることが、不登校や問題行動等を回避するうえで大きな意味をもつ。また、障害受容を早い時期から適切に促し支援することにより、保護者や教員に対するきめ細やかな教育が展開でき、幼児・児童の成長・発達を保障することができる。 保護者や教員からの要請が多く、相談・観察等に相当の時間を要するため、平成21年度より巡回回数を増やした結果、相談回数が増加し、一人ひとりの相談時間が増加した。特別支援学級・特別支援学校の対象児童・生徒が増え、就学相談を適切に行うことができるよう平成27年度より回数をさらに増やした。 前年度に引き続き市内在住で軽度発達障害が認められる児童の療育キャンプも国立曽爾青少年自然の家へ1泊2日で実施した。児童は2日間で自分らしさを発揮して情緒・行動の安定が、保護者は「待つ」姿勢や子どものよさを認める姿勢が培われるとともに、互いの連帯感が生まれた。昨年参加した児童が今年も参加したことから、キャンプの成果が評価されていることが分かる。 事業成果の問題行動・状況を回避・防止・改善・解決できた割合は、一定の成果であると考えている。			
事業の課題・問題点	特別支援学級への入級児童数は増加傾向にある。また、幼稚園での特別に支援を要する幼児の増加や小学校で普通学級に在籍して特別に支援を要する児童も増加している。その現状から幼児・児童本人や保護者、教職員の発達・成長に関わる相談活動は欠かせないものとなっている。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	幼稚園、小学校の成長発達に関わる相談ニーズが増えている。さらに、特別な支援を要する幼児・児童が増加している現状から、巡回相談の件数を増額し、よりきめ細かい相談活動を行ってきた。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	子育て・教育についての悩みや不安を持っている保護者や、園児・児童・生徒・保護者に対しての悩みを持っている教員も増加してきている中、この事業は十分成果を上げてきている。これからも、保護者や教員が気軽に相談できるような環境作り(施設・人材育成・幼、小、中学校との連携等)に取り組んでいただきたい。本年度より、こども・若者サポートセンターに移行するが、今まで以上にスムーズな情報等の連携をお願いしたい。 学校生活の複雑多岐な諸問題に対し、細やかに対応する本事業は有効に機能していると考えられる。28年度よりこども・若者サポートセンターに職務が移管されるなかで、質が下がらないような配慮がされることを期待する。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☒ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	平成28年度からは、子ども・若者サポートセンターが開設されそちらに移管される。今まで以上に相談活動の充実を図ってもらい情報の共有を十分に進めていきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	4
事務事業名	適応指導教室	担当課名	学校教育課
係 名	教育相談室	施 設 名	教育相談室

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～		
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり		
	施策目標	必要な知識や能力を身につけられるようにする		
事業の目的	不登校児童・生徒 1 人 1 人に即した支援を行い、学校復帰を目指すとともに、学校不適応が社会不適応につながらないようにする。			
事業の内容	市内小中学校に在籍する不登校児童・生徒が、スクールカウンセラーの面談を経て通室する。学校不適応が社会不適応につながらないことを目的として、個別カウンセリング・少人数での対人関係訓練・学力保障を中心に様々な支援を行う。不登校児童・生徒を対象に個別カウンセリングや個別教科学習、集団活動、スポーツ活動等を行い、学力の保障を図るとともに、児童・生徒の自立心や社会性、協調性を育て、のびのびとした発達・成長を促す。			
事業対象	市内の小・中学生			
事業年度	☒	区分指定無	☐	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成 2 6 年度決算	平成 2 7 年度決算	平成 2 8 年度予算
		事業費 ①		190	190	0
		内一般財源		0	0	0
		内国・県補助金		0	0	0
		内受益者負担		0	0	0
		人件費 ②		5, 302	5, 900	0
		総コスト①＋②		5, 492	6, 090	0
実績と 成 果	区 分		単位	平成 2 6 年度実績	平成 2 7 年度実績	平成 2 8 年度(目標)
	事業 実績	入室人数	人	10(6)	17(11)	0
		※入室人数については、在籍者数（その年度の入室者数）				
		学校復帰数	人	1	3	0
	事業 成果	高校等進学率	%	100	92	0
		出席率	%	27	29. 96	0

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	平成27年度は新庄中学校区・白鳳中学校区より7名の入室があった。 出席率は29.96%程度である。平成27年度は、学校に行けない、ふたかみ教室にも行きにくい生徒が複数いて出席率が低くなった。そのような生徒が全面的な引きこもりにならないように、指導員2名が日を決めて家庭訪問に取り組み、週に1回、月に2～3回とふたかみ教室に来ることができるようにした。 昨年度に引き続き、社会見学や体験学習を実施した(海遊館への卒業旅行、花や野菜の栽培活動)。見学地での感動、集団行動の大切さの自覚等々貴重な学習の機会であると認められる。 平成23年度より、2ヶ月ごとに各小・中学校より不登校傾向が認められる児童・生徒の記録を提出願い、それを通して各学校に不登校防止の自覚を促し、早期発見・早期対応を図るようにしている。調査により教育相談室・適応指導教室や学校の取組を客観的に分析検討する機会としている。学校が不登校をできる限り防止すること、自らの取組の適否を客観的に検討する機会となると同時に、教育相談室・適応指導教室との連携が深まっている。			
事業の課題・問題点	中学生の不登校は、小学校時代にその萌芽が認められる場合が少なくない。前述した2ヶ月ごとの不登校傾向児童生徒の調査の分析をはじめとして、適応指導教室として何ができるかを今後検討し、気になる事例に関して学校との連絡調整を図っているが、今後さらなる取組の充実を図る必要がある。 その取組の端緒として、平成25年度から市教育振興会の組織の一つである教育相談部会の活性化を図り、各校の交流や不登校の要因の一つである発達障害の理解を促す取組を行った。平成27年度には、「不登校」についての関係者会議を2回実施し、不登校の現状把握を行うとともに、サポート方法を検討願った。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	適応指導教室に入室しているが、教室に来る回数が極端に少ない生徒もいる。このような児童・生徒に対して指導員が定期的な家庭訪問を行い家庭から外に出ることが出来るような取り組みを進めている。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	不登校児童・生徒に対して一人ひとりに応じた指導・支援とともに不登校の早期発見・対応を図るこの事業は、一定の成果を上げている。これからも児童・生徒及び保護者に対して、学校と十分な連携をとり取り組んでください。本年度より、こども・若者サポートセンターに移行するが、今まで以上にスムーズな情報等の連携をお願いしたい。 学校生活になじむことができない児童・生徒に対し、義務教育のフォローを行う本事業は青少年の健全育成にもつながる重要な事業である。どうしても出席できない対象者には家庭訪問も行うということで、担当者の負担は大きいと思われるが、今後とも対応を進めていただきたい。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☒ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	平成28年度からは、こども・若者サポートセンターが開設されそちらに移管される。引き続きカウンセリングを実施し、スムーズな情報の共有を十分に進めていきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	5
事務事業名	スクールカウンセラー（SC）	担当課名	学校教育課
係 名	教育相談室	施設名	新庄中学校 白鳳中学校

（計画）

総合計画上の 位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～			
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり			
	施策目標	互いの人権を尊重し、思いやりのある心と健全な精神を育てる			
事業の目的	学校不適応をはじめ学校生活上の諸問題で悩む児童・生徒に対するカウンセリングを行うことで、諸問題の改善を図る。				
事業の内容	不登校や学校生活（いじめ・友人関係・学校不適応等）の諸問題で悩む児童・生徒・保護者の求めに応じてカウンセリングを行う。 また、学級担任や相談担当教員へのコンサルテーション（支援者に対する助言等）及び職員研修の指導助言を行う。 適応指導教室に入室する児童・生徒のカウンセリングを行い、進路を決定する。				
事業対象	市内の小・中学校児童・生徒とその保護者、教員				
事業年度	■	区分指定無		□	平成 ～ 平成 間

（実施内容）

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成２６年度決算	平成２７年度決算	平成２８年度予算
		事業費 ①		2, 065	2, 065	0
		内一般財源		2, 065	2, 065	0
		内国・県補助金		0	0	0
		内受益者負担		0	0	0
		人件費 ②		0	0	0
		総コスト①＋②		2, 065	2, 065	0
実績と 成 果	区 分		単位	平成２６年度実績	平成２７年度実績	平成２８年度(目標)
	事業 実績	相談回数	回	445	456	0
	事業 成果	適応指導教室 入室者数	人	7	11	0
		情緒や家庭環 境の安定	人	44	40. 00	0

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	多様かつ増加傾向にある相談要請への対応については、スクールカウンセラー（以下、S C）に相談の一切を委ねるのではなく、S Cの初期相談の後は教育相談室長が継続相談を引き受けて実施した。また、より専門的な関係機関（医療・サポートルーム等）につなぎ、課題の改善・解決に努めている。 平成27年度の相談回数456回のうち、教職員のコンサルテーションが109回あり、不登校傾向をもつ児童・生徒に対する現場の指導に生かされている。			
事業の課題・問題点	市が単費で雇用するS Cは、適応指導教室入室に係る相談や教育相談室所属心理士へのアドバイスの時間も含むため、年間最大50回（350時間）の予算措置をしている。平成27年度より県費スクールカウンセラーが全中学校に配置されることになった。現在、新庄・白鳳中学校に県費スクールカウンセラーがほぼ隔週に配置（年間17回、年105時間）されたため、市費スクールカウンセラーも隔週に両校に配置した。これによって、両校共ほぼ毎週カウンセラーが配置できるようになり、カウンセリング事業の充実を図ることができた。 一つの学校に2名のカウンセラーがいるため、2名のカウンセラーの連携と役割分担をどう図っていくかが課題となる。			
評価を受けての改善点(過去3年間)	市費スクールカウンセラーが白鳳中学校専属であったのを4年前から、月に1回新庄中学校でカウンセリングを行うことにした。このことにより、新庄中学校のカウンセリングは県費カウンセラーの月2回と市費カウンセラーの月1回を合わせて月に3回行うことが出来るようになり、さらに平成27年度より新庄中学校、白鳳中学校とも県費カウンセラーが月2回市費カウンセラーが月2回となり毎週カウンセリングが行えるようになった。			

(有識者意見)

有識者意見	学校生活上の諸問題で悩む児童・生徒が増加してきている中、スクールカウンセラーの果たす役割は大きい。県費だけでなく市費のカウンセラーが配置され体制が整っており十分成果が上がっている。また、教職員のコンサルテーションも充実して、教育現場に生かされていることは、児童・生徒にとってよいことであり、今後とも今までどおり継続してください。本年度より、こども・若者サポートセンターに移行するが、今まで以上にスムーズな情報等の連携をお願いしたい。 以前から問題となっていた中学校2校間の差が無くなり、事業として成熟してきたように感じる。相談回数も微増しており、引き続き需要がある事業である。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☒ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	平成28年度からは、こども・若者サポートセンターが開設されそちらに移管される。不登校児童・生徒数が多いのが現状であることから、保護者、教職員に対してカウンセリングを行う取組を引き続きすすめていただき、スムーズな情報の共有を進めたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	6
事務事業名	学校給食事業	担当課名	学校給食センター
係 名	学校給食センター	施 設 名	学校給食センター

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	安全・安心～安全がまもられ、安心して暮らせるまち～			
	政策目標	社会生活の安全性の向上			
	施策目標	食に対する安心感を高める			
事業の目的	園児・児童・生徒の心身の健全な発達のため、安全で栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、食に関する正しい理解と判断力を養い学校での食育に資することを目的とする。				
事業の内容	葛城市の給食事業は、給食センターから幼稚園5園・小学校5校・中学校2校に給食を実施している。給食数は1日4、100食である。安全・安心で栄養バランスのとれた給食を提供し、合理化・効率化を図るため両センターが連携して献立の作成や食材の共同購入を行い、設備管理等における契約業務も統一して行っている。食育の取り組みでは、引き続き地産地消を推進して地元野菜への理解を深め、毎月の献立票に「給食だより」の欄を設けて旬の野菜等の説明を入れたり、給食時の指導材料として「学級のみなさんへ」というプリントを各学級に配布したりしている。				
事業対象	幼稚園・小学校・中学校の園児・児童・生徒				
事業年度	☒	区分指定無		☐	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
		事業費 ①		227, 184	353, 971	337, 865
		内一般財源		53, 550	180, 020	159, 332
		内国・県補助金				
		内受益者負担		173, 634	173, 951	178, 533
		人件費 ②		74, 456	40, 764	17, 235
		総コスト①+②		301, 640	394, 735	355, 100
実績と 成 果	区 分		単位	平成 26 年度実績	平成 27 年度実績	平成 28 年度(目標)
	事業 実績	給食材料費	千円	187, 301	188, 057	188, 057
		内市費	千円	13, 667	14, 106	9, 524
		内保護者負担金	千円	173, 634	173, 951	178, 533
	事業 成果	給食人数	人	4, 062	4, 111	4, 204
		給食数	食	710, 850	719, 425	735, 700

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
事業の評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	平成22年4月より給食費の値上げを行っておらず、市からの助成金により運営を行っている。メニューの工夫・食材のやりくりに努力を重ねて安全・安心な給食の提供ができた。平成26年からは消費税の増税に伴い、消費税分のみ給食費に添加している。地場産物としては、米はすべて奈良県産米であり、ねぎ・鶏卵は市内産でまかなっている。季節の食材としては柿・いちご・酒かすも使用している。地場産物への理解を深め、食育の一環として今後も積極的に取り入れたい。			
事業の課題・問題点	・アレルギー対応 ・地産地消に関する取り組み ・異物混入対策			

評価を受けての改善点(過去3年間)	アレルギー対応については、平成27年9月より新給食センターにおいて、先ず乳・卵・エビ・カニの4品目のアレルギー食品について、対応食を実施している。新給食センターでは調理配送の外部委託を実施しており、安全・安心な給食の提供を図っている。地産地消については、関係機関と連携を強化し安定的な供給ができるよう組織作りを図っていく。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	「給食だより」や「学級のみなさんへ」というプリントを配布し、食の安全・アレルギー対応及び食育の取り組みを行い、地産地消についても関係機関と連携して安定した供給に取り組んでおり、評価できる。これからも、安全・安心で栄養のバランスのとれた美味しい給食の提供に取り組んでください。 9月より新給食センターに統合され、新たな取り組みがスタートしたばかりの事業である。事業課題にあるアレルギー対応・地産地消・異物混入対策へのさらなる取り組みを期待する。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☒ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	異物の混入対策について重点的に取り組みを行い、更に地産地消を前年度以上に拡大し、アレルギー対応についても安心できる給食を提供していきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	7
事務事業名	葛城歌壇短歌大会	担当課名	図書館
係 名	新庄図書館・當麻図書館	施 設 名	葛城市立図書館

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	愛着・快適～自然や歴史遺産の豊かさと住みよさが共存する、愛されるまち～			
	政策目標	歴史・文化の保全・継承と交流の促進			
	施策目標	伝統文化を継承するとともに新たな文化・交流を生み出す			
事業の目的	葛城市ゆかりの万葉歌人・柿本人麻呂と、葛城市出身で日本芸術院会員・前川佐美雄の二人の偉大な歌人を顕彰し、短歌のふるさと“葛城”を目指すとともに、日本文化の継承と言語文化の創造を通して、生涯学習の拠点づくりに資する。				
事業の内容	子どもから大人まで日本各地から短歌を募集し、短歌のふるさと「葛城」を目指すとともに、葛城市出身の歌人前川佐美雄の周知にも努めた。 また、葛城市民の間に「葛城歌壇」が浸透するよう、短歌の募集期間中に市民を対象にした「短歌講座」を開催。さらに、7月15日の前川佐美雄の命日の「風蘭忌」には、前川佐美雄の弟子であり葛城歌壇の選者でもある仲つとむ氏に、「佐美雄の短歌を味わう」と題しご講義をいただくなど、葛城市民による短歌の出詠を増やすため、一人でも多くの市民が葛城歌壇に関心を持つように取り組んだ。				
事業対象	小学生から大人までの市民をはじめ、すべての人々。				
事業年度	☒	区分指定無		☐	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
		事業費 ①		1,152	1,325	1,449
		内一般財源		974	1,159	1,279
		内国・県補助金		0	0	0
		内受益者負担		178	166	170
		人件費 ②		2,343	2,579	2,579
		総コスト①+②		3,495	3,904	4,028
実績と成果	区 分		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度(目標)
	事業実績	選者講師謝金	千円	260	280	280
		印刷製本・送料	千円	759	912	1,023
		短歌講座講師	千円	20	20	20
		各種奨励費	千円	113	113	126
	事業成果	応募者数	人	1,232	1,432	1,500
		応募作品数	首	2,140	2,584	2,500
		大会参加者数	人	80	80	100
		短歌講座参加者	人	26	24	25

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	A A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	平成27年度は、ブラジル・アメリカ・オーストラリア・ドイツの4ヵ国に在住する短歌愛好者からも出詠があり、海外においても「葛城歌壇」が広がりつつあることを感じられた。 また、学生の部では、一昨年度より出詠作品が増加。伝統の枠にとらわれない若者らしい感性の作品が多く、学生たちの豊かな感情を詠んだ力作が年々増え、数と質ともに向上している。 葛城市民からの応募も少しずつであるが、増えてきている。継続して出詠する人が定着するよう、これからもPRに努めたい。			
事業の課題・問題点	葛城市内や近隣市町村から短歌作品の出詠はあるが、短歌大会への参加人数が少なく、盛り上がりには欠ける。 また、短歌に親しむ世代は60歳以上が多く、若い世代からの応募が少ないのは、短歌への関心が低いことに原因がある。市内の中学生は、必ず中学3年間の内に一度は出詠する機会があるが、中学校を卒業すると出詠する生徒はいなくなる。そこで、中学生が卒業後も葛城歌壇に関心が向くような取り組みを考えていきたい。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	「葛城歌壇短歌募集」のチラシを外注できるようになったため、チラシの配布作業に早く取り掛かれるようになった。その分、配布先を拡大し、「葛城歌壇」の知名度の向上に努めた。 また、平成27年度より「図書館だより」を発行し、市内の全小中学校に配付。その中で「葛城歌壇」を取り上げ、今まで以上に子どもたちに葛城歌壇のPRを行った。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	郷土の伝統文化を継承していくことは、大切なことである。一人でも多くの市民に葛城歌壇に関心を持つように啓発され、短歌の応募数も年々増加してきており、一定の成果が上がってきていると思われる。また、小・中学生の年代で経験することは大変よいことである。これからも、多くの市民に経験していただくよう取り組んでください。 出詠が増加している点から見て認知が進んでいると考えられる。海外から参加が増えていることは有り難いことだが、増加に伴い作品集の海外郵送料が今後負担になると想定される。ネットで何でも出来る時代、今後作品集制作のあり方を問うていかなければならない。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	葛城歌壇は少しずつ応募者が増加しているが、ほとんどが60代以上の応募で、20代～40代の応募は無いに等しい数である。今後は、他の短歌大会などを参考にしながら若い世代の応募につながるように、さらに周知に努める。 また、海外の応募者も同様に高齢者が多く、ネットを利用した応募や作品集の送付は、考えにくいのが現状である。しかし、応募者の増加により郵送料の負担が大きくなるため、安価な方法で送付できる手段を検討する。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	8
事務事業名	読書活動支援・講座	担当課名	図書館
係 名	新庄図書館・當麻図書館	施 設 名	葛城市立図書館

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい〜心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち〜			
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり			
	施策目標	必要な知識や能力を身につけられるようにする			
事業の目的	市民に図書館を身近に感じていただき、図書館利用を促進する。 また、読書活動の推進や知識を身につけるため、おはなし会などボランティア団体に対しての支援を行う。				
事業の内容	小さなうちから図書館を身近に感じてもらうために、市内に住む1歳前後の赤ちゃんと保護者を対象に、手遊びやわらべ唄や絵本の読み聞かせを行う「あかちゃんといっしょに」を実施。 また、幼児期の子どもや児童が、本とおはなしの世界に親しむことを目的に、毎月おはなしボランティアが図書館で「おはなし会」を開き、保育所・幼稚園・小中学校にも「おはなし配達」を行った。 さらに、夏休みにはクイズラリー、人形劇を実施。春休みには一日図書館員を募集し、子ども達に図書館の仕事を体験してもらい、図書館が果たす役割を学んでもらった。 加えて、大人を対象に「短歌講座」や「文学講座」を実施した。				
事業対象	市民（大人・子ども）、おはなしボランティア、学校・幼稚園・保育所の先生等				
事業年度	■	区分指定無		□	平成 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	平成２６年度決算	平成２７年度決算	平成２８年度予算
			事業費 ①	40	40	20
			内一般財源 内国・県補助金 内受益者負担	40	40	20
				0	0	0
				0	0	0
			人件費 ②	1,173	1,603	1,603
			総コスト①＋②	1,213	1,643	1,623
実績と 成 果	区 分		単位	平成２６年度実績	平成２７年度実績	平成２８年度(目標)
	事業 実績	子ども向け講座	千円	20	20	0
		文学講座（風蘭忌）	千円	20	20	0
		古文書講座	千円			20
	事業 成果	子ども向け講座	人	705	695	81
		文学講座（風蘭忌）	人	50	42	100／1日
		古文書講座	人			25

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	A A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	平成27年度の講座は、赤ちゃんからお年寄りまで参加できる、趣向の違う講座を実施した。「あかちゃんといっしょに」は、親と子のふれあいやコミュニケーションが目的であったが、同時に親同士のふれあいにもつながり、良い効果があった。 また、おはなしボランティアが行う毎月のおはなし会は、市民の間にかかなり定着し、参加人数は着実に増えてきている。図書館職員がおはなしボランティアと一緒に、おはなし会やおはなし配達に参加することで、図書館職員の知識を高め、おはなしボランティアの負担の軽減になるよう努めた。 さらに、一日図書館員は、新庄館・當麻館ともに定員を超える応募があったが、断ることなく全員を受け入れ、子ども達に図書館の仕事を学んでもらうことができた。			
事業の課題・問題点	図書館と共に図書館事業に携わるおはなしボランティアを育成し、毎月のおはなし会とおはなし配達をさらに充実させることが課題である。 また、大人を対象にした講座は、短歌講座と文学講座(風蘭忌)を実施したが、どちらも内容が「短歌」であるため、参加者が同じであった。今後は講座の内容を精査し、多くの市民が参加できる講座を考えたい。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	図書館が行う子どもを対象にした事業は、おはなしボランティアを頼りにすることが多く負担をかけていたが、平成27年度は元市立幼稚園教諭の協力を得て、新規事業ができた。 これからも、庁内の機関との連携を模索し、よりよい事業を行いたい。
-------------------	--

(有 識 者 意 見)

有 識 者 意 見	本年度も、学校・幼稚園・保育所の子どもは、十分目的を達成できている。しかし、大人対象の支援・講座は、横ばい状態である。今後、大人対象の支援・講座の再検討及び啓発の必要が急務であると思われる。 本離れが進む中、図書館への関心を高める本事業は市民の生涯学習推進に効果があると考えられる。また元幼稚園教諭の協力が光っている。ボランティア確保の問題がある中、今後も経験豊かな協力者を得ていくことができれば、さらなる事業発展が見込まれる。
-----------	--

(方 向 性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	子ども対象の講座は、今まで通りボランティアの協力を得ながら行い、また、行政や他の団体とのタイアップも視野に入れ、新しい講座やイベントを検討したい。 大人対象の講座は、どのような講座が求められているのか現状を把握し、ニーズに合う事業を行い、参加数の増加と満足度の向上につなげたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	9
事務事業名	ブックスタート事業	担当課名	図書館
係 名	新庄図書館・當麻図書館	施 設 名	葛城市立図書館

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～			
	政策目標	子育てと生きがいの両立			
	施策目標	地域で支えあいながら、楽しく子育てができるようにする			
事業の目的	赤ちゃんと保護者が触れ合う機会をつくれるよう絵本を介して、行政と地域が連携して子育てを支援する。				
事業の内容	毎月の4ヵ月児健診時に、健康増進課やおはなしボランティアと協力してブックスタートを実施。図書館職員がブックスタートの趣旨を説明した後、おはなしボランティアによる絵本の読み聞かせを行う。乳幼児期に優しく話しかけることの大切さと、絵本を活用した親子のコミュニケーションの取り方を保護者に伝え、行政とボランティアが共働して地域の子育て支援を行っている。				
事業対象	4ヵ月児健診対象の赤ちゃんとその保護者				
事業年度	☒	区分指定無		☐	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
		事業費 ①		288	302	329
		内一般財源		288	302	329
		内国・県補助金		0	0	0
		内受益者負担		0	0	0
		人件費 ②		928	827	827
		総コスト①+②		1,216	1,129	1,156
実績と 成 果	区 分		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度(目標)
	事業 実績	ブックスタート	千円	288	302	309
		絵本講座	千円	20	0	20
	事業 成果	ブックスタート	組	267	380	330
		絵本講座	人	62	0	30

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☒ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	A A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	ブックスタートを受けた後、図書館で行うおはなし会に参加する親子が増えている。また、赤ちゃん向けの絵本の貸出も増加した。家庭において絵本を介した親と子のふれあいが浸透しつつある。			
事業の課題・問題点	毎月実施するブックスタートでは、おはなしボランティアの協力が不可欠であるが、現在おはなしボランティアとして活動しているのは2団体しかなく、ブックスタートの他にも活動範囲が広く多忙である。今後安定しておはなしボランティアにブックスタートに携わってもらうには、メンバーを増やし、また、おはなしボランティアの育成を急がなければならない。			
評価を受けての改善点(過去3年間)	ブックスタート事業の一環として、健康増進課の2ヶ月児健診に図書館職員も参加し、保護者自身に「絵本の読み聞かせ」を行い、「絵本を読んでもらう」体験を味わってもらっている。そうすることで、ブックスタートの趣旨や、おはなしボランティアが赤ちゃんに絵本の読み聞かせを行う目的が、保護者に理解されやすくなった。			

(有識者意見)

有識者意見	絵本を通しての親子のふれあいの場を提供することは、大変有意義であり子育て支援に十分貢献している。また、2ヶ月の検診で保護者に啓発し、4ヶ月検診で実施するという企画は、参加しやすいメリットがあり有効である。今後も行政と地域が連携して実施してください。今後、この事業を継続していくためにもボランティアの育成に力を入れていく必要があると思われる。 課の枠を超えた連携事業である本意業は市民目線に立った素晴らしい事業である。人口減少が叫ばれる中、子育て世代を対象としたこのような事業を更に充実させることが今後10年、20年を見据えた市政であり、引き続き費用以上の効果が見込まれる。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	ブックスタートを継続して実施していくには、ボランティアの協力が不可欠である。既存のボランティアの資質向上とメンバーの増員に努め、充実したブックスタート事業の運営につなげたい。 また、ブックスタートをきっかけに「絵本の読み聞かせ」を推進しているが、「読み聞かせ」が一過性で終わることなく家庭で継続されるように、ブックスタート後の支援も行っていきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	10
事務事業名	成人式式典事業	担当課名	生涯学習課
係 名	生涯学習係	施 設 名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～			
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり			
	施策目標	互いの人権を尊重し、思いやりのある心と健全な精神を育てる			
事業の目的	新成人が大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ますため、国民の祝日に関する法律に基づく成人の日に合わせて本事業を行う。大人としての責任を感じ、義務を果たすことの必要性を実感するための機会としたい。				
事業の内容	新成人による新成人のための成人式にするために、新成人からスタッフを募集し、企画・運営等について協議を重ね、会場舞台設営や飾り付け等の諸準備も行うなどして、本事業を実施する。				
事業対象	新成人及び新成人関係者				
事業年度	■	区分指定無	□	平成	～平成間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
		事業費 ①		912	944	1,000
		内一般財源		912	944	1,000
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②		4,747	3,280	3,280
		総コスト①+②		5,659	4,224	4,280
実績と 成 果	区 分		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度(目標)
	事業 実績	決算額	千円	912	944	1,000
		スタッフ会議	回	6	7	10
	事業 成果	参加者数	人	278	264	250
		対象者人数	人	381	357	340

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)							
	☐	増加	☒	横ばい	☐	減少	☐	かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)							
	☐	十分貢献している	☒	概ね貢献している	☐	あまり貢献していない	☐	貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)							
	☐	十分できている	☒	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)							
☒	十分できている	☐	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない	
総合評価	A		A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要					
評価の説明	新成人からスタッフを募集し、新成人が生み出すアイデアを多く盛り込み成人式を企画し、新成人が最も望むであろう形で成人式を実施する事が出来、参加者からの反応は概ね良いものとなっている。 また、これまでの成人式は結果として、記念品の作成に多くの予算を費やしていたが平成25年度からは、参加したことを喜べる「記憶に残る」成人式を目指し、平成25年度はダンス、平成26年度は、恩師のビデオとギター演奏やトーク、平成27年度はタイムカプセルの中を披露するなどで、会場は盛り上がりを見せ成功裏に終えたと考えている。 このように従来とは違ったスタイルでの成人式を実施することが、他市町村と比較して高めの参加率につながっていると考えられる。							
事業の課題・問題点	新成人スタッフが中心となって事業を推進するにあたり、スタッフが毎年更新される事と、スタッフの能力や積極性に左右され、安定した成果を生むことが難しい。また、スタッフは毎年、公募になるが集まりにくい。(平成25年から中学校卒業生に案内文書をお願いしている) 行政側のこれまでの経験や実行委員会のノウハウを上手くスタッフ側へ伝達し、それぞれの年度の新成人の色を出してやる事が課題である。							

評価を受けての改善点(過去3年間)	年度を重ねるごとに、行政が培ってきた経験を新成人スタッフへ伝達し、スタッフのアイデアに幅と深み生まれるように、指導・助言を行っている。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	本年度も第Ⅰ部式典、第Ⅱ部新成人スタッフが中心となつての企画運営は、大変有意義であり、記憶に残る成人式になっていて評価できる。また、4年前から中学生卒業生にスタッフの案内文書を配布することによって、スタッフの確保にも取り組んでいる。これからも、事業の目的達成に向けて、取り組んでいってください。 新成人自身を設営スタッフとして巻き込む点が引き続き評価できる。また、スタッフ募集に苦労する点から、中学校卒業時に告知を行い、協力を得ようという試みが28年度から花開こうとしている。新成人の出席率も高い水準で、今後も発展が期待できる。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐	さらに重点化する	☐	事業の縮小を検討する
	☒	現状のまま継続する	☐	休止、廃止を検討する
	☐	見直しのうえ継続する	☐	終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	今後も、事務局としてこれまでに積み上げたノウハウや経験など、可能な限り情報提供・助言を行うことはもちろん、先輩との情報交換なども考えて行きたい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	11
事務事業名	生涯学習人材バンク事業	担当課名	生涯学習課
係 名	生涯学習係	施 設 名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱		やさしさ・生きがい〜心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち〜				
	政策目標		学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり				
	施策目標		必要な知識や能力を身につけられるようにする				
事業の目的		豊かな知識・経験・技能等をお持ちの市民にボランティア活動として学校教育や社会教育のお手伝いをいただき、本市教育のより一層の振興を図ろうとするものである。 健康で生き甲斐のある明るく住みよいまちづくりに役立つことを目的に、人材バンク募集・登録及び派遣により生涯学習の推進を図る。					
事業の内容		人材バンク募集及び登録に基づき、自主的に活動している市内の団体やグループ、サークル等の学習活動の支援のための斡旋や派遣を行う。					
事業対象		市内自主活動グループ等					
事業年度		■	区分指定無	□	平成	～平成	間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
		事業費 ①		24	26	30
		内一般財源		24	26	30
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②				
		総コスト①+②		24	26	30
実績と成果	区 分		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度(目標)
	事業実績	決算額	千円	24	26	30
	事業成果	登録者数	人	64	57	60
		派遣講師数	人	34	21	40
		受講者数	人	34	27	40

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	C A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	人材バンクの指導分野は新しいジャンルのものが増えてきているが、平成25年度から登録者数は高齢化もあり減少傾向である。 派遣依頼数は極僅かであり厳しい状況が続いている。他課が実施する事業への講師派遣の実績があるが、今後も積極的に新規開拓を行っていかねばならない。			
事業の課題・問題点	派遣依頼数が少ないため、他の事業へ積極的に講師を紹介し人材バンクの利用を促したい。 また、近年、個人からの派遣依頼の問い合わせが増加し、元来は団体からの依頼のみ受託しているのが、個人の問い合わせにも紹介を行なっている。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	市広報での紹介や他課への事業説明と講師紹介を行っている。
-------------------	------------------------------

(有識者意見)

有識者意見	25年度より人材バンクの登録者数が減少傾向にあるとのことだが、登録者の有意義な活動ができていないことに問題があると思われる。この事業の啓発に力を入れていくことが必要である。 コスト面での負担がほとんど無いとはいえ、自主総合評価が「C」であることからわかるように、事業として課題が多い事業である。折角登録していただいた人材が余りにも活用されていない。抜本的な改革が必要である。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	PR不足に尽きると考える。市の広報誌での紹介だけでは事業の周知に限界がある。学校や市・教育委員会の事業などでのPRも、さらに積極的に行っていききたい。 また、全分館長の出席する公民館分館長会議でも公民館活動での活用さらにPRに努めていききたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	12
事務事業名	青少年健全育成事業	担当課名	生涯学習課
係 名	青少年健全育成係	施 設 名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい〜心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち〜			
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり			
	施策目標	互いの人権を尊重し、思いやりのある心と健全な精神を育てる			
事業の目的	次代を担う青少年の健全な育成を地域ぐるみで図る。				
事業の内容	市青少年健全育成協議会を組織し、所属団体の校長会・生徒指導主任者会・PTA協議会・県青少年指導員・高田警察署少年補導員の5団体間の連絡調整を行い、下記の活動を推進する。 ①広報・啓発活動の推進(市広報誌への掲載・駅等での啓発活動) ②非行防止と環境浄化運動の推進(遊戯施設等での巡視活動)				
事業対象	市内青少年				
事業年度	■	区分指定無		□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
		事業費 ①		400	400	400
		内一般財源		400	400	400
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②		1,915	1,549	1,549
		総コスト①+②		2,315	1,949	1,949
実績と 成 果	区 分		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度(目標)
	事業 実績	会議	回	4		
		研修会	回	1	1	
		巡視活動	回	2		
		街頭啓発	回	2	2	
	事業 成果	会議	人	80	79	
		研修会	人	3	5	
		巡視活動	人	45	42	
		街頭啓発	人	68	75	

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	各種イベントでの啓発活動やのぼり旗の設置、巡回指導など当初の活動計画どおりに実施できたが、メンバー自身各々の仕事を持ちながらの活動でもあり、限られた時間で互いに協力して活動できるような取り組みを進めることが必要であると考え。 巡視活動・啓発活動は各所属団体でも実施しているが、実績と成果に掲載した数は市青少年健全育成協議会が全体で取り組んだ数を示す。			
事業の課題・問題点	7月の「青少年の非行・被害防止強調月間」及び11月の「子ども・若者育成支援強調月間」についての啓発活動を行っているが、市民が意識を持って自分たちの手で地域の青少年を育成するという行動に結びつくところまでには達していない。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	今年度からこども・若者サポートセンターが設置され、家庭環境やこころの病などに起因する青少年健全育成の課題について連携を図っていきたい。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	青少年健全育成は、地域ぐるみで行うことが大切である。また、地域への情報提供・啓発は不可欠であり、取り組んでもらっているが地域ぐるみでの取り組みまでは至っていないと思われる。これからも取り組みを継続してお願いしたい。本年度、設置されたこども・若者サポートセンターとの連携を取り、目的達成に向け取り組んでください。 市内青少年の健全育成は市民全員の課題である。経験豊かな各種団体の協力は、市民の安心感に繋がりが強い。継続した事業展開が必要である。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	7・8月と11月の強調月間を中心として街頭啓発や有線・無線放送での啓発はもちろん、公園まつりやゆめフェスタなど、多くの人に直接訴えることのできる場での活動にさらに工夫を凝らして考えていきたい。 新しく組織されたこども・若者サポートセンターともこれまでと同様に連携を図っていきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	13
事務事業名	学校・地域パートナーシップ事業	担当課名	生涯学習課
係 名	生涯学習係	施 設 名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～		
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり		
	施策目標	互いの人権を尊重し、思いやりのある心と健全な精神を育てる		
事業の目的	学校教育の充実と地域・家庭の教育力の向上を図り、地域住民と生徒との異世代交流を通して地域の連帯感を高める。			
事業の内容	学校教育の充実と地域・家庭の教育力の向上を図るため、市内各小・中学校に学校支援地域コーディネーターを設置し、学校支援ボランティアの派遣等を行いながら環境整備支援活動等を中心に支援を行っている。			
事業対象	市民及び市内小中学校教員			
事業年度	■	区分指定無	□	平成 23年度 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	平成 2 6 年度決算	平成 2 7 年度決算	平成 2 8 年度予算
			事業費 ①	2, 999	3, 001	3, 000
			内一般財源	1, 000	1, 154	1, 000
			内国・県補助金	1, 999	1, 847	2, 000
			内受益者負担			
			人件費 ②	1, 353	1, 510	1, 510
			総コスト①＋②		4, 352	4, 511
実績と 成 果	区 分		単位	平成 2 6 年度実績	平成 2 7 年度実績	平成 2 8 年度(目標)
	事業 実績	運営委員会に係る経費	千円	469	464	470
		教育支援活動に係る経費	千円	2, 530	2, 537	2, 530
	事業 成果					

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	これまでの事業は、学校の花壇整備など環境整備中心の支援であり、地域住民や学校を訪れる保護者などから校内の花壇が見違えるほど美しくなったとの声が聞かれ、本事業が一定の効果をあげることができたと考えるが、さらに平成25年度より収穫した野菜などを使った食育やミシンなど家庭科支援にも取組みを行ってきている。また、コーディネーターには常に情報共有を図りながら学校間の交流なども行っている。さらに様々な学校行事にも補助員としてその都度、協力いただき学校・生徒からも信頼されている。			
事業の課題・問題点	支援を行うためのボランティアの確保が当初からの課題であったため、それぞれの学校でPTA総会での呼びかけや保護者への案内文の発送等で募集を行っていただく事により年々増加の傾向にある。開始から5年が経過し、この事業そのものが相当認知されてきている。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	学校行事とPTA行事の間で、保護者のボランティアの方々にはご苦労いただいている。本事業の理解をなお一層広めるため、昨年は、市広報誌にこの事業の説明と学校ごとの活動を連載した。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	地域とともにある学校を目指すためにもこの事業は重要であり、活動内容も年々多様化しており、地域住民と子どもたちとの交流が深まり、評価できる。これからも、地域・家庭の教育力を活用し、より一層の効果上げるよう取り組んでください。 地域力の低下が問題となる中、地域として子どもを育てようという本事業の重要性が高まっている。能力・知識・伝承などを次世代に伝え、サービスを受ける子ども・保護者・学校側、サービスを提供する行政・ボランティア双方にメリットがあり、WIN-WINの関係が築けている。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	事業開始から5年が経過し、学校・保護者、地域の理解が相当程度深まり、登録ボランティアの方々も年々増加してきている。今後もアドバイザー・コーディネーター間の情報交換や連携を深め、より効果のある事業としていきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	14
事務事業名	生涯学習まちづくり推進大会	担当課名	生涯学習課
係 名	生涯学習係	施 設 名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	参画・活力～市民と行政が目標を共有し、ともに取り組むまち～			
	政策目標	市民参画による協働のまちづくりの推進			
	施策目標	地域コミュニティ・団体を育てる			
事業の目的	主に市内の小・中学校生の日頃の思いを発表する場とモデル分館(毎年2館指定)が、1年間の生涯学習活動の成果について発表を行う場として本事業を捉えており、明るく楽しい「生涯学習まちづくり」の推進を目指している。				
事業の内容	①平成27年度モデル分館として指定を受けた北の門公民館及び南新町わかさ台公民館による生涯学習活動発表 ・伝統文化の紹介、地域文化継承及び文化資源の保存等や地域防災活動の取組 ・花いっぱい活動や講座・教室等を通じた区民の交流の機会・場づくりを目指した取組 ②モデル分館指定を受けている2分館による講座での作品や活動写真等の展示 ③市内小中学校児童・生徒による学校での体験学習や生活発表的な作文の朗読 ④菊花展表彰式				
事業対象	市民				
事業年度	■	区分指定無		□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	平成２６年度決算	平成２７年度決算	平成２８年度予算
			事業費 ①	626	615	634
			内一般財源 内国・県補助金 内受益者負担	626	615	634
			人件費 ②	1,175	1,133	1,133
			総コスト①＋②	1,801	1,748	1,767
実績と 成 果	区 分		単位	平成２６年度実績	平成２７年度実績	平成２８年度(目標)
	事業 実績	参加人数	人	552	592	600
	事業 成果					

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
事業の評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	平成27年度にモデル分館と指定された2館による、各地域における伝統文化や新たな取組等の紹介が行われ、地域文化を再認識、そして新しい時代に即した文化の創造していく地域ぐるみでの取り組みなど、そしてなによりも生涯学習活動を通じて、とかく希薄になりつつある地域住民の交流の輪を広げる良い機会となっていることに加えて、小中学生の作文発表や文化団体による発表などは、人生の糧となり得る貴重な体験をすることが出来る事業と考えている。			
事業の課題・問題点	モデル指定分館(2館)の発表について、残り14分館となり、複数分館を抱える大字については再度の活動報告を求められるケースが出てきている。本年度についても例年どおり輪番での2館で予定をしているが、特に対象者の少ない分館などは、これまでも複数分館を合同で行いたいとの意見もあり、これらの分館については、実情に応じ合同での事業や一ヶ大字での事業についても当該分館の目線で発表いただくなどの対策を講じている。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	指定した分館に年度当初に行っている説明会では、不安を口にされる方も多く見受けられるが、普段行なっている活動に若干の工夫や追加を行なうことなどを提案。生涯学習を糸口として、地区住民が地域の伝統行事や歴史、生活様式などを通じ、希薄になりつつある地域共同体の再生など目標を持って取り組むことの重要性を理解してもらい、自治会活動そのものへの、参加しようとさせる動機付けの大切さや共通した目的を達成することの充実感を味わってもらえるよう助言している。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	人間関係の希薄化が進む中、この生涯学習活動の発表は、地域住民の交流の場となり、「生涯学習まちづくり」の推進に役立っている。自治会活動・公民館活動の活性化にもつながり、今後とも継続していただきたい。 モデル分館は当該年度だけで無く、以降数年に亘って活性化の兆しがあり、分館を中心とした地域コミュニティの復活を後押ししている。ただ全ての分館に順番を回すには年数がかかり、折角の活性化も持続させることが難しい。分館を対象とした他事業とのリンクなど、次の手が求められるのではないかな。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	希薄になりつつある地域共同体の再生・活性化のきっかけづくりとして、今後も充実したものになるよう行っていきたい。モデル分館については、予算上の制約もあり現状の方法以上のものは望めないが、国や県のコミュニティに関する補助事業などの情報も積極的に発信していきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	15
事務事業名	葛城アートフェア事業	担当課名	生涯学習課
係 名	生涯学習係	施 設 名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～		
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり		
	施策目標	芸術文化活動やスポーツ活動などを活発にする		
事業の目的	葛城市の芸術文化のより一層の振興を図るとともに、芸術文化を通じ市内外の住民の交流・地域の活性化を図り、「魅力あるまち葛城市」の発信を目的とする。			
事業の内容	葛城市の文化遺産・展示施設に一般公募の芸術作品を展示し、葛城市を美術館化する試み。アートを通じて広く葛城の魅力を発信するイベントを行う。			
事業対象				
事業年度	☐	区分指定無	☒	平成 27年度 ～ 平成（未定） 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算	
		事業費 ①	5,847	8,000	
		内一般財源	61		
		内国・県補助金	5,000	8,000	
		内受益者負担	786		
		人件費 ②	5,298	5,298	
		総コスト①+②	11,145	13,298	
実績と 成 果	区 分	単位	平成 27 年度実績	平成 28 年度目標	
	事業 実績	決算額	千円	5,847	8,000
	事業 成果	来場者数	1 日当	1,837	2,000

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)							
	☒	増加	☐	横ばい	☐	減少	☐	かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)							
	☐	十分貢献している	☒	概ね貢献している	☐	あまり貢献していない	☐	貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)							
	☐	十分できている	☒	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない
事業の評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)							
	☒	十分できている	☐	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない
総合評価	B		A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要					
評価の説明	初めての試みでもあり、準備期間が短くPR不足も否めなかったが、当初の予想来場者を大幅に上回る来場者があった。(7日間14会場延べ12,000人) また、葛城通信として配布したフリーペーパーや付帯イベントとして実施した市内幼小中学生の企画展示、仏像スケッチ、紙すもう大会、ファッションショーなども概ね好評であった。							
事業の課題・問題点	各方面から様々な意見をいただいた。 ・開催時期、会場 ・募集方法 ・PR ・搬入、搬出方法 ・展示方法、スペース ・スタッフ ・ボランティア など 本年、第2回目を開催するにあたり改善可能なものから実施したい。							

評価を受けての改善点(過去3年間)	
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	葛城市の文化遺産・展示施設を利用して一般公募の芸術作品の展示及び葛城の魅力を発信するイベントを実施することによって、目的である「魅力あるまち葛城市」の発信は、おおむね達成できたように思われる。ただ初めての試みではあるが、作品において市内の応募が少ない点が今後実施していく上での重要な課題である。 一般公募作品の出品数、来場者数、一般企業の協賛についても評価できる点が多い事業である。ただ、事業の課題・問題点に記載されているとおり、多くの課題も見られる。予算面では補助金の増額も見込まれているので、最大限の効果を発揮できる工夫を凝らしていただきたい。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐	さらに重点化する	☐	事業の縮小を検討する
	☒	現状のまま継続する	☐	休止、廃止を検討する
	☐	見直しのうえ継続する	☐	終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等)	昨年度は、初めての試みでもあり、展示会としてのレベルの受け止め方の違いから特に市内文化協会会員などに応募辞退者が多かったこともあり、本年度は、応募部門をプロ・アマに分けた。また、昨年非常に困難な作業となった搬入・搬出作業は一部業務委託とした。展示場所については、當麻寺周辺の民家にも協力をお願いし展示スペースの拡大を図った。 本年も、ボランティアの方々の協力をいただきながら充実したものにしていきたい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	16
事務事業名	公園まつり実行委員会業務	担当課名	中央公民館
係 名	中央公民館係	施 設 名	中央公民館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～			
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり			
	施策目標	互いの人権を尊重し、思いやりのある心と健全な精神を育てる			
事業の目的	地域住民が集う中で、市民ひとりひとりが仲間としての絆を強め、地域文化への理解をより一層深めることで誇りをもった活力あるまちづくりへの参加を目的とする。				
事業の内容	葛城市公園まつり実行委員会を主催者として、葛城市体育協会および区長会をはじめとする約22団体の協賛により屋敷山公園一帯で野外イベント（太鼓や踊り、戦隊ショー、パフォーマンスショー、演劇、フラダンス、吹奏楽等）を実施するとともに、模擬店、フリーマーケットの出店、盆栽の展示即売会、似顔絵、古本市にニュースポーツなどを同時に行う。				
事業対象	市内地域対象住民				
事業年度	■	区分指定無		□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト		区 分		平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
		事業費 ①	(千円)	1,500	1,500	1,500
		内一般財源(千円)		1,500	1,500	1,500
		内国・県補助金(千円)				
		内受益者負担(千円)				
		人件費 ②		2,978	2,921	2,728
		総コスト①+②(千円)		4,478	4,421	4,228
実績と 成 果	区 分		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度(目標)
	事業 実績	決算額	千円	1,485	1,470	1,500
		企画運営委員会	回	1	1	1
		実行委員会	回	1	1	1
	事業 成果	参加人数	人	10,000	10,000	10,000
		協賛団体	団体	22	22	23

(評価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)			
	☒ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☒ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	A A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	平成25年度から毎年5月3日開催に固定したことにより、市民のみならず市外の方々にも定番行事との認識がいきなり、多数の来園者で賑わった。また、終日好天にも恵まれ、野外イベントをはじめ模擬店、フリーマーケットも大盛況で非常に盛り上がった。			
事業の課題・問題点	昭和50年から40年近く続いている伝統ある事業であるが、毎年の開催であるため、イベント内容が、マンネリ化しないよう工夫を凝らす必要がある。 また、協賛願っている各種団体の方々には、公園まつりの他の催し物等にも参加して楽しいひと時を過ごしていただけるよう運営体制を改善していかなければならない。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	平成24年度から中央公民館に事務局が置かれたことで、準備作業がスムーズに行えるようになった。また、駐車場を増やすことにより交通渋滞も解消された。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	伝統的な事業であり、住民も楽しみにしている事業である。毎年マンネリ化にならないように実行委員会が主体となって、関係団体と検討され円滑に事業が実施されている。これからも、活力あるまちづくりに貢献できるように取り組んでいただきたい。 交通渋滞などの問題を克服し、少しずつバージョンアップを遂げている事業である。長年の開催もあり市民への認知度は高い。目的にある誇りをもった活力あるまちづくりへ多年に亘って貢献している事業である。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	今回頂戴した高い御評価は、実行委員会業務に携わる者にとって有難い限りである。ただ、この種の事業はともすれば形骸化・マンネリ化しがちであるため、市民の皆さんが主人公として生き生きと活動していただけるよう、また市民の皆様に喜んでいただき、本市の誇りの一つとなるよう、常に見直しを図りつつ充実発展を図りたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	17
事務事業名	地区館教室・講座事業	担当課名	中央公民館（當麻文化会館）
係 名	地区館係	施 設 名	5 地 区 館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～			
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり			
	施策目標	必要な知識や能力を身につけられるようにする			
事業の目的	生涯学習社会の構築を目指す一環として、地域において趣味を同じくする人々や教養を身につけたいと思う人々が地区館に通い、自主的な活動を推進する機会を提供するとともに、交流を深め、活動の輪を広げる。				
事業の内容	生涯学習社会の構築を目指す一環として、地域において趣味を同じくする人びとが地区館に集い、自主的な活動を図るとともに交流を深めるものである。 疋田、忍海、北花内、磐城、當麻の5地区館で絵画等13教室、俳句の1講座を開講し、教室は6回～20回の実施、講座は4回実施で開講している。 開講にあたっては、毎年3月の『広報』とともに各戸配布する『教室・講座ガイド』に掲載し、受講生の募集を行っている。				
事業対象	市内 在住・在勤者				
事業年度	■	区分指定無		□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト		区 分		平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
		事業費 ①	(千円)	1,144	1,226	1,246
		内一般財源	(千円)	1,144	1,226	1,246
		内国・県補助金	(千円)			
		内受益者負担	(千円)			
		人件費 ②		1,343	1,276	1,276
		総コスト①+②	(千円)	2,487	2,502	2,522
実績と成果	区 分		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度(目標)
	事業実績	各種教室・講座	総回数	136	138	134
	事業成果	参加人数	人	268	247	257

(評価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	料理・絵手紙・太極拳・パッチワークの4つの教室で、講座開始後及び終了前のそれぞれ10分間程スタッフが同席し、また、書道・ちぎり絵の2つの教室についてはスタッフが終了まで同席した。その他全受講者の学習能力を高めるために新規受講者と継続受講者の学習調整を行うなど、講師とも協力のうえ教室の支援をきめ細やかに行うとともに、受講者のニーズや反応の把握に積極的に努めている。受講者が学習していく過程において、他の受講生との繋がりをもちながら「学ぶ」という共通項のもと人間関係が築かれ、教室に一体感が生じ、教室・講座をより楽しいものと考えていただくことで学習効果が上がるように努めた。			
事業の課題・問題点	新講座・教室開設の要望もあるが、予算と場所の関係もあり、引き続き検討課題事項である。 毎年継続して受講しておられる方が多数あり、新しい受講者と習熟度に違いが生じている教室・講座もある。新講座開設の課題と合わせて考えていかねばならない。 定員をオーバーした教室・講座が5教室ある。講師の好意と受講者の理解により実施することができた。昨年度に引き続き、今後の課題点である。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	平成26年度、受講者の学びのニーズに応えるのに学習回数の増加を図った。2教室を新しく開講した。平成27年度も受講者の学びのニーズに応えるべく学習回数の増加を図った。1教室を新しく開講した。学習内容のマンネリ化をなくしていくため、手芸教室の講師の変更を行った。平成28年度は2教室を新しく開講した。受講者のニーズに応え、富田地区手芸の内容を変え、パッチワーク教室にした。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	地区館教室・講座事業は、生涯学習社会の構築に向けて有意義な事業で自主的活動の推進につながっていくものである。毎年、地域の学びのニーズを的確に把握し実施され、一定の成果が見られる。これからも、誰でも気軽に参加できる地区館活動に力を注いでいただきたい。 受講者の動向に応じた教室内容の変更など工夫が見られる。広報誌などを通じた告知も適切で、市民の生涯学習と地域活性に貢献している事業である。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	地域での学びは、単に気心の知れた方同士が学びを共にするといったものにとどまらず、ともすれば希薄になりがちな地域社会の人間関係を再構築する貴重な機会に他ならない。そのことを念頭に置き、より多くの方々にご参加願えるものを工夫したい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	18
事務事業名	中央公民館 當麻文化会館 教室・講座事業	担当課名	中央公民館・當麻文化会館
係 名	中央公民館係	施 設 名	中央公民館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～			
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり			
	施策目標	必要な知識や能力を身につけられるようにする			
事業の目的	市民等の教育、学術、文化及び教育向上のため、「教室・講座」を開講して学習活動を支援するとともに、仲間づくりなど交流の機会を提供する。				
事業の内容	『社会教育法』第20条(目的)、第22条(公民館の事業)ならびに『公民館の設置及び運営に関する基準』第3条(地域の学習拠点としての機能の発揮)に基づき、市民等の教育、学術、文化及び教養の向上のための「教室・講座」を開講して学習活動を支援するとともに、仲間づくりなど交流の機会を提供する。 1. 中央公民館では、 7 教室 成人⑤：華道、きもの着付け等、子ども②：絵画、茶道 19 講座 成人⑪：菊づくり、ガーデニング、暮らしのマナー 等 子ども⑧：親子クッキング(土・日)、親子お菓子・パンづくり(土・日)、親子陶芸(土・日)、野外活動体験 等 2. 當麻文化会館では、 22 講座 成人⑩：絵画、男の食卓等(8)、1日講座(5)、パソコン講座(6) 子ども③：親子おもしろ工作、寺子屋、葛城塾 を開講 開講にあたっては、毎年3月の『広報』とともに各戸配布する『教室・講座ガイド』及び市のホームページ上の「e古都なら 奈良電子自治体共同運営システム」において、市民に周知するとともに、受講生の募集を行っている。				
事業対象	市内在住者・在勤者				
事業年度	■	区分指定無		□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト		区 分		平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
		事業費 ①	(千円)	4,000	4,087	4,424
		内一般財源(千円)		4,000	4,087	4,424
		内国・県補助金(千円)				
		内受益者負担(千円)				
		人件費 ②		10,753	12,512	12,120
		総コスト①+②(千円)		14,753	16,599	16,544
実績と成果	区 分		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度(目標)
	事業実績	中央公民館	謝金	2,471	2,752	2,994
		當麻文化会館	謝金	1,521	1,335	1,438
		合計	謝金	4,000	4,087	4,432
	事業成果	中央公民館	受講者数	3,341	3,790	4,285
		當麻文化会館	受講者数	2,085	1,813	2,948
		合計	受講者数	5,426	5,603	7,233

(評価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	学習の促進とふれあいの場を提供することを目的に、成人・子ども・親子を対象とした各種教室・講座を実施している。 成人講座では、華道、茶道、書道、料理、着付け、ヨガ、パソコンといった 趣味や教養を活かした講座を、子ども・親子講座では「作る楽しさ」を学ぶ、料理やパン・菓子づくり、陶芸を開催した。 また、夏休みには子ども向けのイベント講座として、野外活動体験、寺子屋を開催しており、どの講座も人気で、受講者の受講意欲や関心が非常に高く、親子対象講座を中心に多くの講座が抽選となっている。			
事業の課題・問題点	教室・講座は受講料が無料(教材費等は受講者負担)のため安易に捉えられるむきがあるのか、定員確定後に辞退される方がおられ、教材を発注済みの場合は費用負担をお願いしている。 その他、同じ教室や講座を連続して受講される方が一部見受けられるため、定員を超える申込があった場合、抽選時に新規応募者を優先している。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	平成26年度は実用ボールペンからかな書道に変更(講師は同じ)した。平成27年度は新しい内容の講座を1日講座として5講座設けた。平成28年度は、応募しやすいように着付け講座を内容別に2つの講座に分けた。パソコン講座では、応募が少ない3つの講座を1つにまとめ新パソコン講座とした。また、新たにワード、エクセル中級コースを設けた。親子おもしろ工作講座では、7月の土日4回講座を、A班として7月に2回、B班として8月に2回開催することにした。(別々に応募可能とした)
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	教室・講座とも内容が豊富で一定の成果が見られる。これからも地域住民の学習ニーズを的確に把握し、教室・講座の精選を行い、誰でも気軽に参加できる教室・講座の実施に取り組んでください。また、この教室・講座を地区館教室・講座につなげて行って欲しい。 市の生涯学習プログラムの中心を担う事業である。教室・講座を通じて市民の学習と交流を促し、一定の効果を挙げている。内容についても様々なニーズに応じる工夫がなされている。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	生涯学習の重要性は、高齢化が著しく進行する現代において、益々高まるばかりである。同時にここには、従来にも増して多様なニーズが存在し、それに柔軟に対応していく必要があることも示している。また、学びの成果をどう地域や社会に還元するかといった視点も見逃せない。以上の諸点も勘案しながら、事業の改善を行っていきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	19
事務事業名	文化振興事業	担当課名	新庄・當麻文化会館
係 名	総務係・文化会館係	施 設 名	新庄・當麻文化会館

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～			
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり			
	施策目標	芸術文化活動やスポーツ活動などを活発にする			
事業の目的	市民に質の高い文化に触れる機会を設け、葛城市芸術文化を発信し、創出する。				
事業の内容	魅力ある自主事業を展開することによって、新たな芸術、文化ファンを増やし、地域の文化水準の向上を目指す。 毎年、ミュージックコンサートやお笑い劇場等の公演を実施している。また、市民参加・参画型事業として新庄文化会館では「J-pop限定のど自慢」や市民劇団「風塾」の公演を、當麻文化会館においては、夕涼みコンサートをはじめ市民劇団「くすのき」の公演を実施している。 また、平成２８年度は宝くじ事業によるコンサート（新庄文化会館）や県大芸術祭参加事業（當麻文化会館）を実施する予定である。				
事業対象	市民及び近隣市町村の住民				
事業年度	☒	区分指定無		☐	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分	単位	平成２６年度決算	平成２７年度決算	平成２８年度予算
		事業費 ①		12, 282	16, 972	16, 868
		内一般財源 内国・県補助金 内受益者負担		7, 117	11, 895	9, 998
					255	370
				5, 165	4, 822	6, 500
		人件費 ②		6, 743	7, 951	8, 329
		総コスト①＋②		19, 025	24, 923	25, 197
実績と 成 果	区 分		単位	平成２６年度実績	平成２７年度実績	平成２８年度(目標)
	事業 実績	自主事業入場料	千円	5, 165	4, 822	6, 500
		自主事業委託料等料	千円	12, 282	16, 777	16, 868
	事業 成果	自主事業入場数	人	2, 951	4, 544	5, 250
		自主事業 (有料)開催数	本	2	3	4
		自主事業 (無料)開催数	本	6	8	8

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	市民参加・参画型の J - p o p 限定のど自慢、市民劇団、クリスマスコンサート等の公演事業は周知がかなり進み、市民が手軽に文化や芸術と触れあえる機会、自らが創造、発信するかけがえのない機会として大変有意義なものとなっている。			
事業の課題・問題点	有料の事業については、市民が興味や関心、期待感を持ち、満足していただける事業を実施することで、集客人員の増加が期待できる。観客ニーズにあった公演等にしぼりこんで計画し満席にする方向を目指しているが、財政面から考えると、観客のニーズにあった自主事業でさえキャパシティの面で事業コストの課題が残るため、事業本来の目的と市民ニーズのかねあい等を十分慎重に検討していきたい。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	ポスターチラシ等を置いてもらえる場所の発掘や、タウン誌などの無料広告を利用して他方面に周知し宣伝効果を上げることによって集客につながられた。自主事業公演時に毎回アンケートを実施し、ニーズにあった催しを開催することでチケット完売を概ね達成できた。さらに新たな試みとして「友の会」特権としてのイベント開催やキョードー大阪との共催事業は会場がおおいに賑わった。新たにピアノコンサートも行い、盛況に終えることができた。
-----------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	キャパシティの面で、どうしても事業コストに課題はあるが、毎回アンケートを実施することによって市民のニーズを把握し事業内容を検討し実施している。政策目標である「心豊かな人づくり」に貢献しており評価できる。これからも質の高い文化に触れる機会を多くつくっていただきたい。 内容が充実しておりプログラムとしては問題無い。有料イベントについても「友の会」を活性化させる結果を残しており、効果的であると考え。キャパシティの問題については現状、どうともすることが出来ないで施設に見合った内容を継続すべきと考える。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	今後も住民参加・参画型の事業を継続するとともに、新庄文化会館では「友の会」の活性化を図り有料事業を中心に観客ニーズにあった公演を計画していく。 また、當麻文化会館では地域として育成すべき団体等の公演が定着してきており、今後は平成29年度に奈良県で開催される国民文化祭の参加も含め自主事業を継続していきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	20
事務事業名	展示（常設展・特別展等）事業	担当課名	歴史博物館
係 名	歴史博物館	施 設 名	歴史博物館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	愛着・快適～自然や歴史遺産の豊かさと住みよさが共存する、愛されるまち～			
	政策目標	歴史・文化の保全・継承と交流の促進			
	施策目標	歴史遺産をまもり、来訪者を増やす			
事業の目的	展示会を通じて地域の歴史文化を紹介し、市民が地域の伝統文化等に関心を高め、愛郷心が育まれるようにしたい。				
事業の内容	展示会（年間企画展 3 回・特別展 1 回）の開催、展示図録・目録等の発行。				
事業対象	市民等来館者				
事業年度	■	区分指定無		□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
		事業費 ①		2,760	2,712	4,167
		内一般財源		1,792	1,684	3,479
		内国・県補助金		0		
		内受益者負担		968	1,028	688
		人件費 ②		10,587	10,587	10,587
		総コスト①+②		13,347	13,299	14,754
実績と 成 果	区 分		単位	平成 26 年度実績	平成 27 年度実績	平成 28 年度(目標)
	事業 実績	入館者数	人	4,611	4,946	5,000
	事業 成果					

(評価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか。)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	博物館の主要な事業として、葛城に関係するテーマで特別展・企画展などの展示活動を、例年通り年合計4回開催した。入館者数は、前年に比べ増となり、過去入館者数の平均値でも上位であった。その原因は、春季企画展の開催内容が「忍海と渡来人と古墳」がテーマの展示であったことにより、本テーマに興味を持つ市内・外の多くの人々に高い関心をよび好評を得ることができた。また、事業経費のコスト削減については、展示会開催経費について、従来から展示パネル製作など業者委託業務で施工していた展示装飾に関しても、質感的に劣るものの、できる範囲で職員の手作りによるもので行なうなどして、経費節減に努めた。なお、展覧会開催の周知の方法により、入館者数も大きく影響をうける。現状において市広報・HPや県広報、市内放送、市内各区の掲示板へのポスター掲示、新聞報道などを活用し、市民に対して特別展等の開催告知を行っている。これにより郷土の歴史に対し関心を持つ市民等に、特別展等の開催内容について広く周知が出来ていると思われる。入館者数においては、年4回の特別展・企画展等の開催によりリピーターも多く、安定した観覧者数の傾向が見られるが、より多くの市民に、葛城の歴史文化に興味を感じ、入館していただけるように、これからも効果的な周知方法や展示内容を更に検討し見出す必要がある。			
事業の課題・問題点	特別展・企画展は例年通り年合計4回の開催をしているが、本事業予算の殆どは特別展開催の必要経費であり、他の企画展は、展示パネルを職員で手作り製作するように努めるなど、できる限りの展示事業経費節減の中で開催にこぎつけているものである。ただ、なんとか展示会開幕準備ができて、展覧会等広告経費の予算削減により広告範囲が削減されたままであるため、催し物情報(ポスター・チラシによる)の発信範囲が狭まったままであり、市外など広くに情報が届きにくい状態となってきた。このことから、経費のかからない新たな効果的広告手段の模索が必要となってきたものの、予算の伴わない広告方法にも限度を感じる。展示事業等の開催経費についても、経費節減に努め、予算等の効果的な運用努力を行うものの、更に求め続けられる、経費削減と入館者増への目標達成努力は葛城市の社会教育推進の一翼を担う公的博物館活動の普及啓蒙を推進するうえにおいて、厳しい状況である。			
評価を受けての改善点(過去3年間)	緊縮予算の中、工夫を凝らして展示会を実施し、安定した観覧者数を維持されていることは評価できる。これからは展示会を通じ、郷土の文化発信に努力していただきたい。葛城という枠で縛るならば、入場者の大きな伸びや展示会の斬新さを期待することは難しい。博物館の位置づけをもう少し柔軟に考えるべきではないか。との有識者意見をいただき、冬季企画展では葛城に縛られずに「昔の鍛冶屋」をテーマに展覧会を開催した。本展の開始により入場者の大きな伸びや、観覧者の大きな反響には結び付かなかったが、今後の当館の展示会の有り方を模索する上で有益であった。			
有識者意見	緊縮予算の中、色々な工夫を凝らして展示会を実施され安定した観覧者数を維持されていることは評価できる。しかし、いくら良い企画をしても、市外への情報発信が不可欠である。今後、情報発信が課題であると思われる。 博物館展示について、来場者数の問題は葛城市だけでなく全国各施設の課題だと考えられる。市の歴史博物館は駅前の立地、他イベントとの連携など工夫を凝らし、今後も健闘していただきたい。			

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見、数値目標等)	博物館の主要事業である展示会により多く入館していただくための情報発信については、従来の広報手段のほかに、今後とも可能な限り新たな発信の機会をとらえ、より効果的な発信方法を模索検討しながら進めてまいりたい。また、当館の立地・他イベントとの連携など、様々な事柄なども考慮しながら、企画をすすめるべく努力すると共に、展示会の開催内容についても従来のとおり十分に検討を行い、更なる郷土の歴史文化伝統の発信に努力したい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	21
事務事業名	歴史講座開催事業	担当課名	歴史博物館
係 名	歴史博物館	施 設 名	歴史博物館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	愛着・快適～自然や歴史遺産の豊かさと住みよさが共存する、愛されるまち～			
	政策目標	歴史・文化の保全・継承と交流の促進			
	施策目標	歴史遺産をまもり、来訪者を増やす			
事業の目的	歴史講座等を通じて地域の歴史文化を紹介し、市民が地域の伝統文化等に関心を高め、愛郷心が育まれるようにしたい。				
事業の内容	葛城地域の歴史文化や新しい歴史研究の成果について本講座において、わかりやすく紹介することにより、地域の歴史文化への理解を更に深めると共に、市民の愛郷心を育むことを目標に歴史文化講演会「葛城学へのいざない」を年間12回にわたり開催する。 また、夏季には高学年児童を対象に土器等を制作体験する親子ふれあい講座、秋には市内にて歴史ウォークを開催する。				
事業対象	市民等来館者				
事業年度	■	区分指定無		□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
		事業費 ①		280	205	320
		内一般財源		280	205	320
		内国・県補助金		0	0	0
		内受益者負担		0	0	0
		人件費 ②		950	950	950
		総コスト①+②		1,230	1,155	1,270
実績と 成 果	区 分		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度(目標)
	事業 実績	参加者数	人	1,192	1,402	1,300
	事業 成果					

(評価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか。)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	展示事業とともに博物館の主要な事業として葛城に関係するテーマでの文化講座を、臨時講座の開催で例年よりも増やし、年14回の開催を行った。入館者数は、前年に比べ若干少ないものの、毎回百人ほどの方が集まる人気講座で継続開催の希望も多く、概ね市民ニーズ・施策目標実現に貢献及び目標達成できていると考えられる。また当事業の主な経費の講師謝金も、限られた予算の中で講座に最適な講師の選定に努めている。			
事業の課題・問題点	開館以来、葛城に因む話題を取り上げ毎月1回開催する本講座であるが、「葛城」にテーマをしぼって開催しているため、以前に開催した講演会と内容・講師が重ならないように年間計画を作成し、また、限られた予算の範囲内での講師選びを行なうなど、苦慮しているところである。ただ、開催月や天候により、普段よりも講座出席者の思わぬ減少が起こる場合もある。H27年度においては、目標数値を十分に満たす事ができた。要因として、年度当初は好調な参加率であったこと。半ば頃から、参加率の減少傾向が見られたことから、臨時的に講座回数を前年より2回追加開催したためである。今後、目標数値達成の為、講座開催の告知を従来の市広報や市内放送、新聞報道などの他に効果的方法を探るなどして、広報を小まめに行い、受講者の増につなげたい。市の緊縮予算方針の為、新たな取り組み(歴史講演会以外の催し)を実現する予算確保に至らず、今後の課題としたい。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	本事業において、事業目的や内容および本事業評価の結果を受けて、市の緊縮予算にもかかわらず本事業実施の有益性や成果が評価され、例年どうりの事業予算確保もなされている。市の緊縮予算方針の為、新たな取り組みを実現する為の予算確保に至っていないが、過去の評価結果をふまえ、講座内容や講師の選定等について更に厳選し、当館館長の講演回数を増やし、葛城の枠に留まらず大和全体の古代史を見すえた講座を開催するなどして、新しい来場者の開拓に向けて工夫を凝らした。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	展示事業とともに博物館の主要な事業として、毎回百人ほどの人が参加していることは一定の成果は上がっている。今後、講座内容を検討し、興味のない市民への関心を高めるための取り組みに期待したい。 事業費が削減しているにもかかわらず参加者数が伸びており、事業に対する工夫が結果に結びついている。夏休みの体験事業はまだ多くの可能性を秘めている事業である。事業参加者によるSNS発信を促し、複数回開催することができれば歴史博物館の活性化に繋がると推測される。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見、数値目標等)	葛城市の歴史文化遺産が保全・継承されるよう、郷土の歴史文化に焦点をあてた講座等の開催を継続してまいりたい。また、当講座に対する市民への関心を呼び起こすような内容の取り組みについても検討し、限られた予算の中、広く情報発信を行うとともに、事業参加者によるSNS発信を促せられるような事業運営に努め、市民が郷土の歴史文化を学ぶ楽しみを感じながら、郷土愛がさらに高まるよう普及活動を行いたいと思う。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	22
事務事業名	埋蔵文化財等調査事業	担当課名	教育総務課・歴史博物館
係 名	文化財係・歴史博物館	施設名	教育総務課・歴史博物館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	愛着・快適～自然や歴史遺産の豊かさと住みよさが共存する、愛されるまち～			
	政策目標	歴史・文化の保全・継承と交流の促進			
	施策目標	歴史遺産をまもり、来訪者を増やす			
事業の目的	市内地域の埋蔵文化財の保護。				
事業の内容	市内遺跡内で工事が行われるに際し、施工者から提出される発掘届出書等を県教委へ進達する。それについて県教委から通知される指導事項に従い、市の担当職員が現場にて発掘調査や現場立会等を実施し、調査結果終了報告書等を作成し、県教委へ提出する。また、市内遺跡の範囲確認等のための発掘調査や記録保存等のための発掘調査を市教育委員会が主体となり実施し、詳細な調査記録をまとめた報告書を作成し、国・県へ報告すると共に各研究機関にも配布し、埋蔵文化財の保存・研究のために資する。				
事業対象	一般事業者・市民				
事業年度	☒	区分指定無	☐	平成	～平成間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
		事業費 ①		2,000	2,000	2,000
		内一般財源		500	500	500
		内国・県補助金		1,500	1,500	1,500
		内受益者負担		0	0	0
		人件費 ②		3,352	3,352	3,352
		総コスト①+②		5,352	5,352	5,352
実績と 成 果	区 分		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度(目標)
	事業 実績	調査事業	件	10	9	10
		立会等	件	13	23	30
		届出(通知)	件	54	66	70
	事業 成果					

(評価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	合併に伴い葛城市になったことで、埋蔵文化財包蔵地エリアも増大した。それにともない、当該エリア内における開発件数も年々、増加し、役所窓口における市民からの遺跡有無確認の問い合わせ対応や、提出書類の進達業務、また発掘調査等の事業実施も人員的に十分でなく対応に追われ困難な状況であるが、課内における事務事業の調整に苦慮しながらも、所定の成果を上げている。			
事業の課題・問題点	合併に伴い葛城市になったことで、埋蔵文化財包蔵地エリアも増大し、当該エリア内における開発件数も年毎に増加している。また、公共事業や宅地開発等土地開発事業が増加傾向にある中で、現場対応できる技術職員配置体制が1名と、旧町体制レベルのままであり、更に博物館業務と兼務であることから、博物館事業との兼ね合いに多くの困難を呈する状況である。埋蔵文化財を主担当とする職員が、文化財を有する他の県内市町村なみに配置出来ていないことに問題と課題がある。更に、発掘調査現場における調査に対応できる職員も40歳代1名のみであり、早急な後継者の育成も必要である。については文化財等行政業務の円滑化をはかるため文化財係(教育総務課)の中に埋蔵文化財等行政業務に対応できる専門技術係職員等の配置をする必要があるのはもちろんの事であるが、増加するであろう発掘調査等の事象や文化財保護のため、行政事務を円滑に対応していく為にも、技術系職員等の新規補充配置と後継者育成が必要である状況である。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	事務の効率化を行うと共に、毎年人事配置の増員も人事ヒアリングに要望しているものの、未改善。本事業における人事的課題について、人事要望を行っているものの事態の改善に至らず、例年ほぼ同様な問題点を提起し、過去における有識者の意見も葛城市の文化財を保護する為、「後継者の育成も含め、市の発展に応じた人材配置が望ましい。」など、提言もいただきながら、改善できていない。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	埋蔵文化財包蔵地エリアの増大に伴い開発件数が増加してきている現状の中、将来的にも文化財を保護していくため、専門職の育成及び人員の増加は必要であると思われる。 市の発展スピードから見て、技術職員配置に不足を感じる。他の町で過去に発生した発掘を軽視した事件の教訓からみても、市として人材確保を早急に行わなければならない。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見、数値目標等)	本市における埋蔵文化財の発掘調査等の業務は、将来のまちづくりに欠かせぬ事業である。近年の開発件数の増加により、それに対応できる専門職員数も限られ、事務を執行するうえで困難な面も多いが、業務の効率化および関係機関との連携をとりつつ、計画的かつ円滑に事業進捗が図れるよう努めていきたい。また、今後の業務の円滑化を進め安定化を図るため、関係職員の増員についても要望をしていきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	23
事務事業名	文化財保存事業	担当課名	教育総務課・歴史博物館
係 名	文化財係・歴史博物館	施 設 名	教育総務課・歴史博物館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	愛着・快適～自然や歴史遺産の豊かさと住みよさが共存する、愛されるまち～				
	政策目標	歴史・文化の保全・継承と交流の促進				
	施策目標	歴史遺産をまもり、来訪者を増やす				
事業の目的	市内における国宝等指定文化財の保存事業。					
事業の内容	市内にある歴史遺産（国宝・重要文化財等）保存のため、文化財所有者等が行う保存修理などの「文化財保存事業」が実施されるにあたり、市内の歴史文化を保全・継承していく為に国・県と共に葛城市も事業助成を行った。平成２７年度は重要文化財村井家住宅保存修理事業及び国宝綴織當麻曼荼羅並びに重要文化財當麻寺四天王立像の内２躯の保存修理ほか８件の保存事業が所有者等により実施され、その事業助成を実施した。また、平成２８年度において新たに国宝當麻寺西塔修理事業が数ヵ年の継続事業として計画され、その事業助成も予定されている。					
事業対象	市内の重要文化財等、指定文化財所有者等					
事業年度	☒	区分指定無	☐	平成	～平成	間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	平成 2 6 年度決算	平成 2 7 年度決算	平成 2 8 年度予算
			事業費 ① 内一般財源 内国・県補助金 内受益者負担	181, 599	105, 505	220, 939
				3, 688	5, 539	11, 697
				138, 671	85, 436	196, 476
				39, 240	14, 530	13, 046
			人件費 ②	1, 089	1, 089	1, 089
			総コスト①＋②		182, 688	106, 594
実績と 成 果	区 分		単位	平成 2 6 年度実績	平成 2 7 年度実績	平成 2 8 年度(目標)
	事業 実績	市内重要文化財等	件	9	11	8
	事業 成果					

(評価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか。)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	A A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	わが国の各地域で長い間守り伝えられてきた文化財は、日本の伝統文化を今に伝え、また未来へ伝える必要のある大切なものである。しかし、文化財の多くは長年の経過により本体が脆弱で定期的な保存修理等が必要である。市内の重要文化財等のうち、保存修理が急がれる重要文化財村井家住宅保存修理事業及び国宝綴織当麻曼荼羅の保存修理並びに重要文化財當麻寺四天王立像(うち2軀)保存修理等の文化財保存事業等が継続事業として既に実施され、今年度からは新たに国宝當麻寺西塔修理事業が数ヵ年継続事業として予定されている。歴史遺産を守ることを市の重要施策目標とするうえで、文化財保存の為の事業に対し、今後も事業助成の必要があることから、本年度においても、補助金交付の予算措置がとられ、市内の文化財の保存事業に寄与していく予定である。			
事業の課題・問題点	古くから先人により大切に守り伝えられてきた文化財は、わが国の地域伝統文化を今に伝え、また未来へ引き継ぐべき大切な歴史遺産であることをふまえ、指定文化財の保護を市の重要施策目標とするうえにおいて、保存等に要する事業助成は必要である。ただ、文化財の保存に要する経費は決して低くなく、文化財の所有者はもちろんのこと、事業助成を行う市にとっても、厳しい財政状態の中で決して容易な負担金額ではない。しかし、財政的に困難であっても文化財保存を市の重要な施策としているうえで、今後も国・県・所有者とともに文化財保存のために継続して取り組む必要があり、当面はその事業助成のための予算確保が課題であると考えられる。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	例年、厳しい市の財政状況であるものの、文化財保存を市の重要な施策とし、今後も国・県・所有者とともに継続して取り組む必要があることから、当面はその予算確保も出来ており、概ね事業目的を達成している。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	国宝等指定文化財は、国民の宝である。また、市の重要施策でありこれからも継続して計画的に取り組んでいただきたい。 有数の歴史資産保有地域として、市民共通の宝を未来の子孫へ引き継ぐ事業で、数百年先まで影響を残すものである。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見、数値目標等)	国民の宝である国宝等指定文化財の保存は、国・県のみならず本市の責務である。今後も関係機関と連携のもと、適正に指定文化財の保存事業が行われるよう細心の配慮を行うと共に、その為の事業助成については、財政状況も勘案のうえ、国・県と連携し、可能な限り計画的かつ適正に実施できるよう努めたい。また、市民に対しては、文化財を保護し次世代以降へ継承していくことの重要性を啓発することに努め、財政負担についても、その必要性について理解が得られるように努力したい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	24
事務事業名	各種教室開催事業	担当課名	体育振興課
係 名	体育振興係	施 設 名	當麻スポーツセンター他

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～		
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり		
	施策目標	芸術文化活動やスポーツ活動などを活発にする		
事業の目的	市民に教室等を紹介し、スポーツに親しむ機会を提供して健康増進を図る。			
事業の内容	在住・在勤者を対象に、スポーツに親しんでいただくきっかけづくりのため各教室を開催する。幅広い年齢層のスポーツニーズおよび教室の実施対象者のニーズを把握し、できるだけ多くの方の参加を目指す（初心者優先）。 年齢や生活環境に適した幅広い市民のスポーツ人口の増加推進に努める。また、親子テニス教室や親子体操教室のように親子でふれあえる教室のニーズが高まっているので、さらに充実していく。			
事業対象	教室・講座受講者（市内在住・在勤者）			
事業年度	■	区分指定無	□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
		事業費 ①		1,547	1,575	1,722
		内一般財源		1,547	1,575	1,722
		内国・県補助金		0		
		内受益者負担		0		
		人件費 ②		2,699	3,398	3,398
		総コスト①+②		4,246	4,973	5,120
実績と 成 果	区 分		単位	平成 26 年度実績	平成 27 年度実績	平成 28 年度(目標)
	事業 実績	小学生	千円	882	882	882
		一般	千円	420	420	560
		親子教室	千円	245	273	280
	事業 成果	小学生	人	162	195	220
		一般	人	52	69	75
		親子教室	組	40	54	45

(評価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	親子対象の教室や子供向けのテニスおよびサッカー教室は人気があり、親子のふれあい並びに子どもの体力向上、バランス感覚養成に役立っていると思われる。 今後、さらに市民のニーズに応じて体力づくり・健康増進に繋がる事業としていきたい。			
事業の課題・問題点	全ての教室生にスポーツの魅力を教え今後クラブ員として活動できるよう導き、教室生は初心者へのみの参加となるよう説明する必要がある。一方、定員に達しない教室もあり、今後の検討課題となる。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	平成24年度からテニス教室の人気により、新庄地区(屋敷山テニスコート)でジュニアテニス教室を開始し、新庄スポーツセンターでは子どものバランス感覚を養うためジュニア体操教室を始めた。また男性も参加できるようエアロビクスは平成25年度から、また健康トレーニング教室については平成27年度から募集条件を改正した。今後、総合型スポーツクラブとの調整が必要となる。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	毎回、市民及び実施対象者のニーズの把握に努め、幅広く年齢に応じた教室を企画・運営され、大変有り難い。これからも、市民のニーズに応えた各種スポーツ教室の実施に取り組んでください。 スポーツ初心者を優先しているということが評価できる。スポーツへの門戸を広げるものであり、子どもから大人まで参加出来る教室バリエーションを今後も幅広く展開するべきである。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	教室内容の見直しと、今年度末設立の総合型スポーツクラブの体験教室との調整を検討する。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	25
事務事業名	各種スポーツ大会等開催事業	担当課名	体育振興課
係 名	体育振興係	施 設 名	新庄第1県民運動場他

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～		
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり		
	施策目標	芸術文化活動やスポーツ活動などを活発にする		
事業の目的	各種スポーツ大会等を企画し市民の参加を促す。			
事業の内容	市民が積極的に参加できる各種大会の開催や後援などを通してスポーツの振興を図り、健康・体力づくりを支援する。市体育協会及び加盟団体とともにスポーツへの関心を高め、生涯スポーツの振興と体力・健康づくり及び技術の向上を図る。 市民体育祭をはじめとする各種のスポーツ・レクリエーション大会等の行事については、参加及び実践意欲の向上をかんがみて内容等を検討し、さらに多くの市民がスポーツに親しむように努める。			
事業対象	大会参加者（市内在住・在勤者）			
事業年度	☒	区分指定無	☐	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
		事業費 ①		4,548	4,548	4,548
		内一般財源		4,548	4,548	4,548
		内国・県補助金		0	0	0
		内受益者負担		0	0	0
		人件費 ②		4,867	5,841	5,841
		総コスト①+②		9,415	10,389	10,389
実績と 成 果	区 分		単位	平成 26 年度実績	平成 27 年度実績	平成 28 年度(目標)
	事業 実績	大会事業費	千円	4,548	4,548	4,548
	事業 成果	大会参加者数	人	8,899	8,832	9,000

(評価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	参加者数は横ばい状態であるが、今後新しいメニューを取り入れることも団体等と検討し、ローコストでハイリターンの大会運営を目指していく。			
事業の課題・問題点	平成16年10月に旧當麻町と旧新庄町が合併して以降、市民体育祭をはじめ各種大会メニューがほとんど変わっていない。 そこで、総合型地域スポーツクラブの設立も視野に入れ新しい手法を加え大会を盛り上げることを考える時期にあると思われる。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	市民体育祭の競技種目を見直したり、平成25年度より、スポーツアドバイザーを招き、市民のスポーツに対する意識向上を図り、参加者増に向けて努めている。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	参加者が横ばい状態であるということは、今後、各種大会および新しい大会等を含め、各種団体と検討していく必要がある。そして、市民が気軽に参加できるような大会になるような企画を考えていただきたい。 大会の開催は市民のスポーツ参加と地域交流を促し、市の活性化に繋がるものである。本年はオリンピック開催年であるので、スポーツの新しい流行が期待できる。10年以上大会メニューが変わっていない部分で少し問題があるように感じるので、スポーツ競技の流行廃りに応じた展開が必要である。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	市民ニーズに適した大会運営ができるよう、各競技連盟とも協議のうえ、大会要項の再検討を行う。また、市民体育祭についても、広く市民の意見を聞きながら、大会の企画を行えるようにする。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	26
事務事業名	体育施設の管理運営事業	担当課名	体育振興課
係 名	体育振興係	施 設 名	當麻スポーツセンター他

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～				
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり				
	施策目標	芸術文化活動やスポーツ活動などを活発にする				
事業の目的	体育施設の安全で効率的な管理および運営					
事業の内容	体育館　４カ所（當麻スポーツセンター体育館、市民体育館、新庄スポーツセンター体育館、いきがい体育館） 運動場　５カ所（當麻健民運動場、新庄第１健民運動場、新庄第２健民運動場、新町球技場、農村広場） テニスコート　３ヶ所（當麻スポーツセンターテニスコート、新町公園テニスコート、屋敷山公園テニスコート） プール　２ヶ所（新庄、當麻両スポーツセンタープール） 上記体育施設の維持管理・運営を職員４名、嘱託１名、アルバイト２名で行っている。					
事業対象	施設利用者（市内在住・在勤者）					
事業年度	■	区分指定無	□	平成	～　平成	間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
		事業費 ①		60,799	46,324	52,450
		内一般財源		59,624	45,017	51,438
		内国・県補助金				
		内受益者負担		1,175	1,307	1,012
		人件費 ②		6,532	6,178	6,178
		総コスト①+②		67,331	52,502	58,628
実績と 成 果	区 分		単 位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度(目標)
	事業 実績	施設管理費	千円	60,799	46,324	52,450
		内修繕、工事費	千円	29,267	11,539	10,657
	事業 成果	施設利用者	人	184,969	192,056	200,000

(評価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☒ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B		A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要	
評価の説明	施設の老朽化に伴い、抜本的な改修計画(改築、補強、取り壊し等を視野にいたした検討)が必要と思われる。 また、利用者のマナーアップ意識を高めて施設、器具を大切に ご使用いただきたい。			
事業の課題・問題点	施設全般の修繕計画を作成し、計画的な修繕・改修が課題となっている。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	今後、上記修繕計画を作成の上、検討する。
-----------------------	----------------------

(有識者意見)

有識者意見	一般市民が毎日数多く活用する体育施設である。安全で快適に利用できるように日々点検を行っていただき有り難い。これからも、点検・改修していただき使用者が安心して活動できる体育施設になるよう努めてください。また、体育施設が多くあるわりには職員が少ないように思われる。 2町合併の恩恵で施設数が周辺市町村に比べて多い葛城市。今後の維持にもそれだけ費用が必要となる。施設を統廃合する方法も考えられるが、大都市近郊の利を活かして市外から合宿など受け入れさらに発展させる方法もある。市の新しい施策に期待する。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等)	現状、職員配置できる限りの維持管理を実施しているが、今後、「新町スポーツゾーン計画」をはじめ、その他の施設でも、施設の現状を早急に把握し、計画的な改修計画の作成に努める。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	27
事務事業名	総合型地域スポーツクラブ事業	担当課名	体育振興課
係 名	体育振興係	施設名	當麻スポーツセンター他

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～			
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり			
	施策目標	芸術文化活動やスポーツ活動などを活発にする			
事業の目的	総合型地域スポーツクラブを設立し、市民のスポーツ意識の高揚、健康増進や体力向上及び子供から高齢者までの人々が集い、スポーツや文化を楽しむコミュニティの実施を図る。				
事業の内容	地域の方が地域のために運営・活動をおこなうもので、健康のための運動からみんなで参加するスポーツや本格的なクラブチームまで、年齢に関係なく好みに合わせたさまざまなスポーツを楽しめるよう、組織作り等を行うもので、平成27年度から、スポーツ振興くじ助成を受け、平成29年3月に葛城市総合型スポーツクラブ設立に向けて、設立準備会を立ち上げ事業を行っている。				
事業対象	施設利用者（市内在住・在勤者）				
事業年度	■	区分指定無		□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分	単位	平成27年度決算	平成28年度決算
		事業費 ①		1,332	1,430
		内一般財源		306	120
		内国・県補助金		864	1,080
		内受益者負担		162	230
		人件費 ②		3,020	3,020
		総コスト①+②		4,352	4,450
実績と成果	区 分		単位	平成27年度実績	平成28年度（目標）
	事業実績	諸謝金	千円	507	1,010
		事業費	千円	825	420
	事業成果	体験教室参加者	人	100	400
		設立準備会	回	7	10

(評価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか。)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない	
総合評価	C A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	昨年度に設立準備委員会を立ち上げ、設立に向け進めている。今年度は、準備委員会を「総務企画」・「企画運営」・「広報」・「財務」等の作業毎に役割分担を定め鋭意努力する予定。			
事業の課題・問題点	平成29年3月設立に向けて、「設立趣意書」・「スポーツクラブ規約」等を整備する。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	
-----------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	地域の方が地域のために運営・活動を行う総合型地域スポーツクラブ設立に向け、準備委員会が立ち上げられ事業を行っているようだが、市民のニーズを的確に把握し、意見を聴き市民のための総合型地域スポーツクラブ設立に向けて慎重に取り組んでください。 平成29年3月に総合スポーツクラブ設立を控えているので、実現に向け実効ある会議を開催し、実働に努め実のあるクラブ設立に導いていただきたい。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	市民のニーズはもちろんのこと、既存のスポーツ少年団・各競技連盟・クラブ等の意見を集約し、設立準備委員会のメンバーである体育協会本部役員・スポーツ推進員とも協議を進める。また、詳細協議を行うために「総務企画」・「企画運営」等の役割分担も行い、「設立趣意書」・「スポーツクラブ規約」等の協議が実のあるものとなるように進めていく。	

7. 点検及び評価のまとめ

教育に関する事務の点検及び評価報告書（各事業評価シート）について、教育委員会より以下の意見を受けました。

（1）各事業に対する意見について

事業 No. 2 学校施設地震補強工事

併せて、より安全が確実に保てる退避場所の確保、点検も行っていたきたい。

耐震補強工事についてはほとんどの学校教育施設の補強工事が進み、安全・安心に教育を受けることができるとともに地域市民の安全にも繋げられるものと思われる。

事業 No. 3 相談（来室・訪問）事業・研修支援

特別な支援を要する幼児・児童が増加している。相談員の人数も増えているので、早い段階でのきめ細かい支援をお願いしたい。また、よりいっそうの幼小中の連携と情報収集ができるように関係者のケース会議等を行ってほしい。

こども・若者サポートセンターに移行されることにより、さらなる充実した活動を期待する。

事業 No. 4 適応指導教室

ふたかみ教室に行きにくい生徒がいるが、家庭訪問をし、指導員と信頼関係を築いてほしい。そのためにも幼小中の連携と情報収集をしっかりと行い、1人でも多くの子どもたちを救ってほしいと願う。

こども・若者サポートセンターに事業が移行された中で、不登校傾向の児童・生徒の調査分析資料をもとに、子育てから家庭のあり方などについて各担当者との話し合い連携を強化し、事業を進めていただきたいと思う。

事業 No. 5 スクールカウンセラー（SC）

事業 No.3・4・5 共、悩みごとの相談施設が1つにまとめられたこども・若者サポートセンターへの期待は大きい。充実した機能を果たしてもらいたい。

SC への相談回数が増加する中で、新しくできたこども・若者サポートセンターと連携を図り、葛城市の子供の不登校0を目指してほしい。

スクールカウンセラーの相談回数等が改善され、充実した体制づくりが構築されてきたと感じられるが、こども・若者サポートセンターが開設されることにより、横のつながりを密にしながら尚一層の取り組みを望む。

事業 No. 6 学校給食事業

異物混入事象が続いていることに鑑み、管理体制の強化を図っていただきたい。

今後も地産地消の推進をお願いするとともに、異物混入の対策を PTA とも協議しながら進めていただきたい。

異物混入対策の取り組みが課題となっている。安全・安心な給食の提供の強化を図るとともに、食育の大切さについて、子どもや保護者に関心をもってもらえるよう、今後も工夫をお願いする。

事業 No. 7 葛城歌壇短歌大会

市民が気軽に応募できるように広報誌に申込み用紙を添付してみてもどうか。

一人でも多くの市民に短歌の楽しさを知ってもらうためにも、図書館内において、短歌の入門から決まりまでを優しく指導していただける教室の開設を検討してほしい。

事業 No. 10 成人式式典事業

新成人からスタッフを募集しての成人式は定着している。また事務局の意図が十分スタッフに伝わって企画されていると思われる。今後も記憶に残る成人式を期待する。

恩師への招待状を行政が送付し、恩師の人数を増やしてもいいかと思う。パンフレットも新成人スタッフに作成させてみてはどうか。

新成人スタッフが中心となってアイディアを生み出すことで、毎年違った展開があり、とても新鮮味があり期待できる。

事業 No. 11 生涯学習人材バンク事業

登録者の知識・経験・技術等を少しでも生かせる機会づくりに努力していただきたい。

利用者への事業の PR について見直しをする必要がある。

事業 No. 12 青少年健全育成事業

所属団体と新しく設置されたこども・若者サポートセンターとの関わりを十分検討していったほしい。

強調月間やイベントでの啓発活動の継続は、1人でも多くの方に知ってもらうためにも効果がある。子どもたちは地域ぐるみで育てるという意識が大切で、今後、こども・若者サポートセンターとの連携でさらなる子どもたちの健全育成に力を入れていただきたい。

青少年健全育成事業については、不登校や、いじめなどとの関連性があるものと考えられ、新事業として開設されるこども・若者サポートセンターとの連携を図っていくことが重要と思われる。

事業 No. 13 学校・地域パートナーシップ事業

アドバイザー・コーディネーターが核となり本事業を推進されていることは誠に有難いことである。今後も情報交換や連携を深め、互いに成就感を味わっていただきたい。

年々、この事業は認知され、保護者ボランティアも喜んで家庭科の支援をしてくださっている。地域ぐるみの子育ての観点からもなくはない取り組みであり、今後、他方面でも発展していくように学校・地域がコミュニケーションを取り、一体になってほしいと願う。

学校運営上なくてはならないコーディネーターとして活躍していただいております、子ども達に人と人とのつながりを深めていく事業として多いに期待する。

事業 No. 14 生涯学習まちづくり推進大会

各地域における分館活動の取り組みが紹介されることにより他の公民館活動にその魅力を伝えることができ、分館活動の活性化に繋げられるものと期待できる。

事業 No. 15 葛城アートフェア事業

参道及び周辺地域の協力を得、可能な限り民家が展示場となれば、更に本事業の盛り上がりが見られると思われる。

葛城市のよさを知っていただくためにも今後続けてほしい事業である。問題点等はまだまだあるが、関係者や市民の声を聞いて少しずつ改善し実りあるものにしてほしい。

事業 No. 16 公園まつり実行委員会業務

公園まつりについては毎年多くの方が参加され、一日楽しく過ごされているが、少しマンネリ化の傾向があるように思われる。映画鑑賞などを取り入れ、工夫する必要性があるのではないだろうか。

事業 No. 19 文化振興事業

今後も、各年齢層にあった事業の展開を図ることにより、会員の増加も考えられる。

事業 No. 22 埋蔵文化財等調査事業

事務の効率化を図る上、切迫した人事要望がなされている。是非技術系の職員の補充を叶えられたい。

葛城市はほとんどが埋蔵文化財包蔵地エリアに指定されているので、開発行為が急速に進む中において文化財を適格に保護する意味から、埋蔵文化財発掘等の専門職員の確保に努めていただきたい。

技術系職員と後継者育成が課題とあるが、市と協定を結んでいる関西大学に相談し、研究の場にしていただくことで、今後の人員確保ができるのではないかと思います。

事業 No. 25 各種スポーツ大会等開催事業

市民体育祭の競技内容の見直しが必要と考えられる。

事業 No. 27 総合型地域スポーツクラブ事業

事業内容の主旨はよく理解できる。有識者も述べられているように総合型地域スポーツクラブの設置には慎重に取り組んでいただきたい。

(2) 総評

主要となる事業について、事務局・各機関においては、そのほとんどを「“現状のまま”あるいは“見直しのうえ”継続する」と自己点検しており、事業の推進状況については概ね評価されるものと考えます。しかしながら、「成果が十分に見られず、改善を要する」と判断される事業もあることから、改めてそれぞれの取組状況を振り返りながら、確実な事業の充実を図ってまいりたいと考えます。

この事業評価に関わっていただきました有識者の方々には、高い見識と豊かな経験のもと貴重なご意見をいただきました。改めてここに深謝申し上げます。

いただきましたご意見を無にすることなく真摯に受け止め、未来に生きる子どもたちが健やかにたくましく成長できるよう、また、市民の皆様が日々の生活の中に安らぎや喜び、潤いを豊かに感じていただけるよう、関係者皆様のご理解とご支援・ご協力を得ながら事業の推進に向けて努力してまいります。

平成28年9月1日

葛 城 市 教 育 委 員 会